



TITLE:

京都大学結核胸部疾患研究所年報 (昭 56 年度)

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学結核胸部疾患研究所年報(昭 56 年度). 京都大学結核胸部疾患
研究所紀要 1982, 15(1/2)

ISSUE DATE:

1982-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/52164>

RIGHT:

京 都 大 学

結核胸部疾患研究所年報

昭 和 5 6 年 度

(1 9 8 2 年 3 月)

京都大学結核胸部疾患研究所

京 都 大 学

結 核 胸 部 疾 患 研 究 所 年 報

昭 和 5 6 年 度

(1 9 8 1 年)

京都大学結核胸部疾患研究所職員

(昭和57年3月31日現在)

所 長 教 授 寺 松 孝

(内科学第一部門)

主任教授：前川暢夫，助教授：中西通泰，講師：川合 満，助手：西山秀樹，倉澤卓也，坂東憲司，講師（非常勤）：池田宣昭，今井節朗，中井 準，吉見輝也，松原恒雄，河野博臣，技官：西尾貞子，本間トキエ

(内科学第二部門)

主任教授：大島駿作，助教授：泉 孝英，講師：木野稔也，助手：大山口渥，門 政男，松井祐佐公，平田健雄，講師（非常勤）：日置辰一郎，中島道郎，福岡謙助，杉本幾久雄，小松幹雄，佐藤篤彦，技官：今井保代，技能補佐員：谷岡文子

(胸部外科学部門)

主任教授：寺松 孝，助教授：伊藤元彦，講師：加藤弘文，助手：瀧 俊彦，田村康一，講師（非常勤）：宮田暉夫，吉栖正之，秋山文彌，日野常稔，技官：平井 要，技能補佐員：野口恵司

(病理学部門)

主任教授：安平公夫，助教授：竹田俊男，助手：鈴木康弘，細川昌則，講師（非常勤）：馬場満男，三井洋司，新納英夫，山本 寛，浜本康平，技官：松下隆寿，小岸久美子，技能補佐員：富田由美子

(細菌血清学部門)

主任教授：桂 義元，助教授：細野正道，助手：喜納辰夫，西川伸一，講師（非常勤）：佐渡敏彦，徳永 徹，長田洋子，湊 長博，事務官：清水一枝，技能補佐員：高沖悠子

(細胞化学部門)

主任教授：市川康夫，助教授：大川欣一，講師：永田和宏，助手：前田道之，堀内正宏，講師（非常勤）：秦野節司，浅野 朗，古沢 満，技官：竹内道子，事務補佐員：坪田晴子

(臨床肺生理学部門)

主任教授：佐川弥之助，助教授：加藤幹夫，講師：佐藤公彦，助手：大井元晴，講師（非常勤）：真鍋 貴，仲田祐，山林 一，山田久和，太田和夫，阿部光幸，技能補佐員：服部央子，石田嘉子

(事務部)

事務部長：伊佐憲治，管理課長：須羽治夫，庶務掛長：水谷繁夫，同主任：近藤英子，同事務官：堀田良恵，大

山達夫, 同技官: 田中 稔, 經理掛長: 田口雅朗, 同主任: 佐藤良男, 野元頼子, 同事務官: 畑 勝, 前野正世, 田中義郎, 事務補佐員: 中瀬安子, 施設掛長: 田中信雄, 同主任: 前田久男, 同技官: 進士 悟, 西川景曠, 岩井昭一, 松浦康, 小西喜一郎, 藤木清文, 同事務官: 高安忠一, 水原貞子, 渡辺光子
業務課長: 保苅 健, 課長補佐: 船谷幸司, 医事掛長: 丹羽 博, 同事務官: 橋本敏子, 関 保子, 事務補佐員: 黒田俊子, 収入掛長: 前田次郎, 同主任: 畠中秀雄, 同事務官: 野田芳子, 佐竹セツ, 藤井芳克, 竹内孝子, 事務補佐員: 中村房枝, 集治昌代, 芦田明子

(附属感染免疫動物実験施設)

施設長(兼)教授: 桂 義元, 助教授, 清水慶彦
技官: 飛田 勇, 門田一美, 大字雪雄, 安岡倉一, 近藤照子

(電子顕微鏡室)

技官: 増田 稔

(附属病院)

病院(兼)教授: 佐川弥之助

(第一内科診療科)

科 長(兼)教授: 前川暢夫
外来医長(兼)講師: 川合 満
病棟医長(兼)助教授: 中西通泰
医員(研修医): 村山尚子, 武藤真, 桜井信男, 丸井康子

(第二内科診療科)

科 長(兼)教授: 大島駿作
外来医長(兼)講師: 木野稔也
病棟医長(兼)助教授: 泉 孝英
医員: (北市正則), 藤村直樹, 医員(研修医): 長井苑子, 山田安民, 普天間健, 吉澤泰介

(外科診療科)

科 長(兼)教授: 寺松 孝
外来医長(兼)助教授: 伊藤元彦
病棟医長(兼)講師: 加藤弘文
医員: 金城 明, 光岡明夫, 医員(研修医): 千葉 渉, 横見瀬裕保

(放射線科診療部)

科 長(兼)教授: 佐川弥之助
外来医長(兼)講師: 佐藤公彦, 講師(非常勤): 阿部光幸
医員: 水野 融, 田中螢子, 李 勝弘, 医員(研修医): 新林成介, 陳 和夫, 福田正悟

(検査部)

検査部長, 助教授: 久世文幸, 医員: 北市正則, 医員(研修医): 戸田佳代子, 技師長: 木津 啓, 技官: 前田清子, 黒住真史, 和田ひな, 山根すま子, 技術補佐員: 春名和代, 吉村佳二, 酒井敏江

(放射線部)

放射線部長(兼)助教授: 中西通泰, 技師長: 浜川純一, 撮影主任: 蔵岡信良, 技官: 大坂泰夫, 曾我部康之, 灘井智代子, 田中龍蔵, 技能補佐員: 小林 忍

(薬剤部)

薬剤部長: 桑田 宏, 薬剤主任: 澤岡平和, 技官: 藤原壽子, 川田昌子, 小林千代子, 川勝一雄, 事務主任: 宇野初枝

(看護部)

看護部長: 平野照子, 看護婦長: 松田比佐子, 近藤信子, 西森三保子, 和多田すみ子, 副看護婦長: 小林とよ,

斎藤千鶴子，山本喜美，技官：松本敏枝，田中松代子，小林梅野，松田富子，小林富貴子，小川まゆみ，米山須磨子，阿部喜代子，柴田佐代子，大山峯子，岩佐純子，末田恵子，稲田ひろ子，山中祥子，榑喜久子，井藤泰子，濃野ヒロ子，大野洋子，福田千恵子，岩野京子，田尻春代，安藤純子，丘 恵子，藤井喜代子，荻田孝子，木村昭子，中原律子，野坂秀美，四方睦美，相川三千代，高橋わさ子，稲垣美智子，松田初枝，二宮トミ子，村西直美，衛藤泰子，内藤敏子，平畑早苗，渡部幸子，米澤カヨ子，坂東フサエ，園田正子，能井美千代，森 朝子，片桐久江，内木カネ子，松本不二，原田芳香，技能補佐員：渡辺ヒデ子，富永妙子，湯浅里恵

教 官 人 事

胸 部 外 科 学 渡 部 智 講 師

昭和46年京都大学医学部卒業，京大医学部附属病院外科，京大胸部研胸部外科にて研修の後，昭和48年より神戸中央市民病院胸部外科に勤務。昭和50年より京都大学大学院医学研究科課程に入学し，固定化酵素の人工臓器への応用について研究。昭和54年4月より京大胸部研胸部外科学助手を勤めていたが，昭和56年5月同講師に昇任された。昭和57年2月より福井日赤呼吸器科に赴任と共に京大胸部研外科学講師を辞任。

胸 部 外 科 学 加 藤 弘 文 講 師

昭和45年京都大学医学部卒業，京大医学部附属病院外科にて一般外科研修の後，昭和47年より市立静岡病院にて4年半にわたり，心臓血管外科を主とした胸部外科の修練をうけた。昭和51年京大胸部研胸部外科助手となり胸部外科全般にわたる臨床に従事すると共に人工血管材料の開発，硬性材料による胸部再建術の開発などに取り組んできた。昭和55年より1年間福井日赤病院に赴任の後，昭和57年2月より京大胸部研胸部外科学講師となり，病棟医長として臨床面をリードすると同時に，人工臓器に関する研究をすすめている。

感染免疫動物実験施設 清 水 慶 彦 助 教 授

昭和40年京都大学医学部卒業。国立療養所岐阜病院，三重大学医学部胸部外科などで胸部外科修練の後，昭和48年京大胸部研胸部外科助手となり，昭和53年以降同講師をつとめていたが，昭和56年4月結核胸部疾患研究所に感染免疫動物実験施設が新設されたのに併い，同実験施設の専任教官として配属され助教授に昇任した。気管気管支，血管，胸壁などの再建術の研究を行っている。

学術集会記録

I 昭和55年度学術講演会 (昭和56年1月24日, 京大会館)

〔研究業績〕

1. 酵素固定化を応用した機能性医用材料の開発

胸部外科学部門 渡 部 智

医用高分子材料は、これまで、既存の合成高分子材料の中から適当な材料が選択されあるいは改良されて使用されてきた。しかし、今後は、それぞれの目的に適合した新たな医用高分子材料が分子設計され合成される方向へ向かうものと推察される。このような医用高分子材料が保持すべき性質として、生体適合性 Biocompatibility および生体機能性 Biofunctionability があげられ、これら両者を併せ持つことにより生体内においてその材料の特性が十分発揮され活用されることになると考えられる。このような観点から、新たな医用高分子材料を製作するにあたっての一方として、合成高分子と生体高分子とのハイブリッドによる医用高分子材料の開発が期待される。そして、その代表に固定化酵素を機能素子として応用した医用高分子材料があげられる。

我々は、固定化酵素を機能素子として応用した新しい医用高分子材料の開発を行ない、体外使用、体内一時使用のみならず半永久的に体内へ埋植可能な医用材料への応用をめざしている。すでに、我々は、組織親和性の高い人工臓器材料としてコラーゲン合成高分子複合体（以下、複合体と略）を開発し、人工気管、人工胸壁など実験的、臨床的に応用しつつある。この複合体に酵素を固定化することによりその表面性状に酵素の持つ生理活性機能を付加し、生体適合性と生体機能性を兼備した医用高分子材料を開発した。複合体のコラーゲン膜層のカルボキシル基群を化学的に活性化し酵素のアミノ基とペプチド結合にて固定化を行なった。これまでに固定化した酵素は、ウロキナーゼ、リゾチーム、トリプシン、プロメライン、ウリカーゼなどであり、ポリペプチド系抗生物質ポリミキシンBの固定化も行なった。いずれも良好に固定化され、その生理活性機能を複合体材料の表面に付加することが可能であった。ウロキナーゼの固定化により複合体材料の表面性状として十分な線溶活性機能を付加することができた。複合体材料に固定化されたウロキナーゼの酵素学的諸性質について、液性ウロキナーゼと比較検討したところ反復使用、長期保存、熱安定性、pH 依存性など全体として安定化されていた。リゾチームやポリミキシンBの固定化により複合体材料の表面に抗菌活性を付与することが可能であった。また、これらの固定化材料の動物への埋植実験を行ない、良好に組織内へ適合する結果を得た。

このように、酵素を固定化することにより医用高分子材料の表面性状に酵素の持つ生理活性機能を付加することが可能である。さらには、ホルモンなどの生理活性物質や酵素系サイクルの固定化により代謝の流れに沿い多機能を保持した医用高分子材料の開発も期待されるところである。

2. 好酸球の分化・増殖因子について

細胞化学部門 堀 内 正 宏

血球はリンパ球も含めて、全て共通の血球幹細胞から分化することが実験的に確められた。血球の分化の機構を解析する場合、目的とする血球系のプレート内でのコロニー形成により進めて行くのが常道である。コロニー形成に関しては、好塩基球を除けば全ての正常血球のコロニー形成が現在では可能である。しかし、これから述べる好酸球に関しては少し問題点がある。末梢血を流れている成熟好酸球には電顕的に特有な結晶を含む顆粒が見られる。ところが、報告によると、特にマウスの好酸球コロニーの細胞には特徴的な結晶が見られなかった。そこで本題に入る。

(1) PWM を含む脾細胞（既定の方法）の代わりにレクテンを含まない胸腺細胞の培養液を用いると好酸球コロニーが形成された。このコロニーは既報の同コロニーとは次の諸点で異なっていた。① 頻度：既報では全コ

ロニー中5—10%であったのに比し1—2%であった。② 形態：既報は分散型で本コロニーはコンパクト型。③ 出現時期：既報は7日で出現，本コロニーは10日以后に初めて確認された。④ そして何よりも，本コロニー好酸球には顆粒内結晶が電顕的に見られたことである。⑤ 更に，この好酸球コロニーには，他の細胞が混じらない純コロニーと，好中球，マクロファージを含む混合型コロニーが見られた。しかし後者が単一クローン由来かどうかは現在の所定かではない。

(2) 胸腺培養液中の好酸球コロニー形成刺激因子 (CSF) を分析すると，① 硫安沈澱で60—80%の分画に集中した。② ゲル濾過にて分子量2—5万の所に分画された（ただし他の血球系 CSF もほとんど全てこの分画に来る）。③ イオン交換樹脂により活性が2ヶ所に分離された。

(3) 以前に報告した好中球—マクロファージ系では二分化能（或いはそれ以上）を持つ前駆細胞（バイポテンター）が好中球或いはマクロファージに分化し，その分化は液性因子によりコントロールされていた。好酸球系の分化に関しても，幹細胞からの高位の分化過程でバイポテンター（或いはそれ以上）が介在しているのかも知れない。その場合，対応する分化系列は何か？上に述べた混合型コロニーが単一クローン由来だとしたら，好中球・マクロファージ系と好酸球系が近い関係にあり，元のクローンはトリポテンターということになる。

3. 線維芽細胞における性ステロイドレセプター分化とコラーゲン代謝応答

病理学部門 細川昌則，石井正治
竹田俊男

マウスにおいて，ある種の臓器（例えば皮膚）の結合組織コラーゲン線維，細線維の大きさ，及びコラーゲン量に性差が存在し（雄>雌），又内分泌腺摘出，ホルモン投与により，諸臓器の結合組織が生理的に種々のホルモン影響下にある事，又そのホルモン反応性からみて，各臓器の結合組織には，臓器特異性がある事を示した¹⁾。

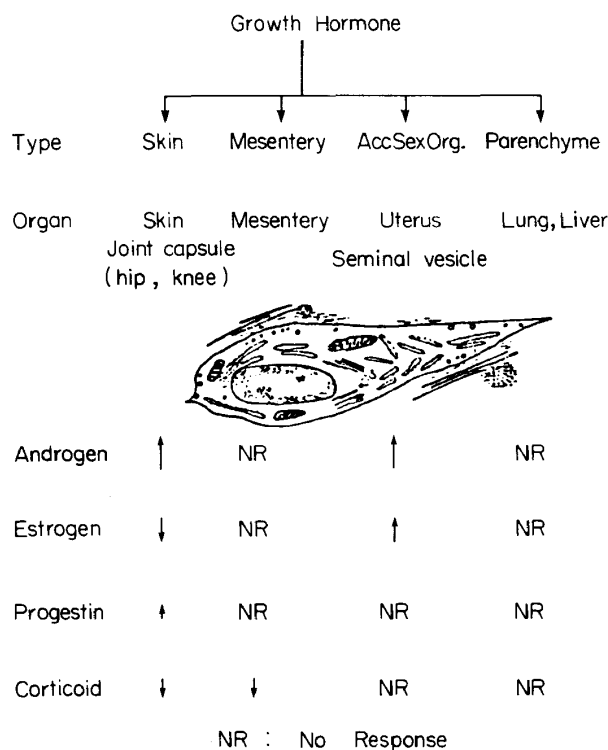
酵素組織化学的，電子顕微鏡的に各臓器結合組織中の線維芽細胞の活性をみると，細胞のホルモン応答性は上記 *in vivo* の結果と一致し，線維芽細胞に臓器特異性がある事が示された。(Figure)

コラーゲン量，エラスチン量のみならず，それらの成熟も性ホルモンの影響下にある。エストロゲンは骨²⁾，子宮頸管³⁾ のリジルオキシダーゼ活性を上昇させる。又コラーゲン，エラスチンの成熟を促進させる^{2,4)}。

In vitro において，性ホルモンは線維芽細胞の機能を直接的に支配する。マウスにおいて，エストロゲンは生理的濃度で，皮膚由来線維芽細胞のコラーゲン合成能を特異的に上昇させる⁵⁾。さらに肺由来線維芽細胞の反応性と比較すると，明らかに線維芽細胞の臓器特異性が示された⁵⁾。この結果は *in vivo* の結果とほぼ一致する。アンドロゲンも同様の作用を示す。線維

芽細胞における，アンドロゲンレセプターの最大結合能，解離定数，とコラーゲン合成能のアンドロゲン投与時の上昇率をみると，コラーゲン合成能は，レセプターの最大結合能に依存している事が示唆された。この事は，アンドロゲンレセプター欠損患者（睾丸性女性化症候群）の外陰部由来線維芽細胞を用いた実験で，コラーゲン合成能がアンドロゲン投与で全く上昇しない事からも支持される⁶⁾。

以上，一連の実験結果より，線維芽細胞のホルモンレセプターシステムの質的及び量的分化程度の違いが，該臓器での反応性の違い，即ち臓器特異性を決定している可能性を強く示唆している。



Figure

- 1) Takeda, T., Suzuki, Y. and Yao, C. S.: Acta Path. Jap., 25:135, 1975
- 2) Sanada, H., Shikata, J., Hamamoto, H., Ueba, Y., Yamamuro, T. and Takeda, T.: Biochim. Biophys. Acta, 541: 408, 1978
- 3) Ozasa, H., Tominaga, T., Nishimura, T. and Takeda, T.: Endocrinology, 109: 619, 1981
- 4) Shikata, J., Sanada, H., Yamamuro, T. and Tadedo, T.: Conn. Tiss. Res., 7: 21, 1979
- 5) Hosokawa, M., Ishii, M., Inoue, K., Yao, C. S. and Takeda, T.: Conn. Tiss. Res., 9: 115, 1981
- 6) Ozasa, H., Tominaga, T., Nishimura, T. and Takera, T.: Endokrinologie, 77: 129, 1981

4. 呼吸器疾患の心身医学——肺癌の心身医学的研究——

内科第一部門 河野博臣

日本心身医学会では「心身症とは、身体症状を主とするが、その診断や治療に、心理的因子についての配慮が、とくに重要な意味を持つ病態」と定義されています。そして、呼吸器系の心身症として、気管支喘息、過呼吸症候群、神経性咳嗽、が挙げられています。カナダの心身医学者 Wittkower, E. D. は心身症及び心身医学について次のように述べています。「心身医学とは何か、この述語に関して、無数の定義がなされてきているが、『正常、異常を含めて、すべての身体機能を、心理的な様相と生理的な様相の相互関係において研究し、その上に立って身体的治療と精神的療法を総合しようとする努力である』とするのが妥当であると云っています。私は癌患者の治療に関して同様に心身両面から総合的なアプローチを行なうことが大切であり、消化器癌について現在まで研究治療を行なってきました。今回、前川暢夫教授の指導で肺癌患者の心身医学的な研究として、主として、性格傾向について研究し、消化器癌などとの比較をみてきました。肺癌患者の性格傾向とその背景では、(1) 幼児期の養育者との離別は3人に1人の割合に認められ、若年者肺癌ほどその傾向は高かった。この際の離別は死別や離婚も含まれている。(2) 性格傾向は非常にきまじめであり、働き屋であるが、遊びがへたである。人間関係をよくするために自分の感情を殺し、自己犠牲になる。職業・社会に対しては過適応である。(3) 発病前に大切な人(親、配偶者、親友)との生死別した人が半数と高い。その他一身上の重大事など合すると、殆んどの人が発病前にストレスをうけている。虚無感、孤独感に陥った人が半数に認められています。(4) 患者が男性が殆んどのためか、殆んどの配偶者は健全で、今の生活に満足し、夫婦仲は83%に良好であることが認められた。殆んどの人が癌であることを告げられていないので安定しているのかも知れない。(5) 現在の病気に対して楽観的である。病気は自然にまかす。医師まかせ、看護婦まかせである。95%の人が医師を信じている。今まで大病になった人が少なく、自己洞察にとぼしい。などのことが明確になってきた。これは、西ドイツの Bultrushu などの研究結果と大体において一致している。胃癌との比較では、性格特徴として、感情の発散は、胃癌の方が有意の差でへたであった。人との交流においても、胃癌の方が、嫌な感情をのみこむ傾向が強いように考えられる。末期癌患者のアプローチを考えると、身心両面から、更に家族への援助など、患者の持つ背景を含めた全力的な配慮が必要である。しかし、患者の持つ個々の問題は複雑であり、画一的なアプローチでは効果が期待できない。このためには、癌患者の持つ個人的な特性を十分に考慮し、身体的、心理的、精神的、宗教的なレベルでケアを行なう必要があると思える。今後肺癌患者の持つ身心相関の問題について研究し、その解明は治療やケアの上で重要であると思ひ発表した。今後研究を重ねていきたいと思ひます。

5. 火災事故被災者の肺機能障害について

臨床肺生理学部門 加藤幹夫

各種の外因性因子による肺病変はまず呼吸細気管支領域に出現することがよく知られており、火災による煙吸入の場合も例外ではない。先に演者は火災事故被災者で事故後ひきつづいて呼吸器症状を訴える一症例に重篤な閉塞性細気管支炎が招来されていることを開胸肺生検によって証明したが、このような末梢領域の病変を肺機能検査成績の上でどのようにとらえることができるかといった点を検討する目的で1972年に発生した北陸トンネル火災事故の被災者83名について7年後の状態を調査した。

全調査例の19.7%が種々の程度の労作時呼吸困難を訴え、また15.9%が1秒率70%以下を示したが、調査例を事故直後の入院期間の長短で分類して比較してみると入院が長期にわたった症例程 \dot{V}_{25} が低下しており、かつ気道抵抗値が増加する傾向が認められた。また同じ対象について喫煙歴との関係で検査成績を比較してみると \dot{V}_{25} は過去の喫煙量と入院期間の両者について相関を示したのに対して気道抵抗値は入院期間のみに対して相関を示した。すなわち従来末梢気道病変に対して鋭敏であるとされているフローボリューム曲線によってはこの場合の煙吸入による末梢気道の増加と喫煙による末梢気道増加とを分離識別することが不可能であることがわかった。

入院期間が長期にわたった症例における気道抵抗値増加の原因については煙および熱吸入による上気道病変の寄与を考えに入れる必要があるという結論に達した。

6. びまん性汎細気管支炎における免疫動態の検討

内科第二部門 平 田 健 雄

びまん性汎細気管支炎 (DPB) の成因は明らかではないが、主病変の場たる細気管支壁には、リンパ球の著しい浸潤像が認められることから、DPB の成立、臨床像の修飾にアレルギーが関与していることが想定されている。本疾患においては、血清免疫グロブリン、特に IgA の値が著しく上昇していることから、Bリンパ球の動態の検討は、DPB の発症機序の解明の糸口になることが期待される。対象は6名 (男3名、女3名) で、平均年齢は50才 (44~56才) であった。平均罹病期間は12年 (3年~40年) で、全例慢性副鼻腔炎を合併していた。喀痰中の細菌検査では、4例にインフルエンザ菌、4例に緑膿菌を認めた。血清免疫グロブリンは、IgM、IgG いずれも上昇していたが、IgA は、平均 818 mg/dl (500~1200 mg/dl) と著明に増加していた。ツベルクリン皮内反応は5例中4例陰性であり、細胞性免疫の低下が認められた。興味あることには、DPB においては、寒冷凝集素 (CHA) の価が、全例において上昇していることが判明した (128倍~1024倍)。しかしながら、抗マイコプラズマ抗体の上昇は認められず、マイコプラズマ感染症とは異なる機序により出現すると考えられた。又、CHA の価は、病状の消長と連動して変化し、炎症の成因と密接に関係していることが想定された。CHA の上昇機序については、グラム陰性桿菌由来の LPS 様物質による polyclonal なBリンパ球の活性化、CHA と菌体成分に対する抗体の交叉反応、菌体成分によるTリンパ球の活性化の結果としての、TRF、AEF、TCGF などの、Bリンパ球の分化に促進的に作用するリンホカインの産生などが考えられた。CHA は一種の血己抗体でもあり、CHA の出現は、あらためてBリンパ球の活動性の亢進、その調節異常が DPB において存在することを示唆する所見であると考えられた。これらの問題を検討するため、Bリンパ球の機能を *in vitro* で検討したところ、PWM 刺激による末梢血中のBリンパ球の免疫グロブリン (Ig) 産生は、予想に反し、低下していた。組替実験の結果、この Ig 産生低下の原因は、サプレッサーTリンパ球活性の亢進、ヘルパーTリンパ球活性の低下、抑制性単球の出現に由来するものではなく、Bリンパ球自身の反応性の低下によるものと判明した。又、*in vivo* における、Bリンパ球の活性化の亢進を反映しているとされる Ig 分泌Bリンパ球も、DPB においては、逆にその数が低下しており、血清免疫グロブリンの増加と矛盾する結果を得た。これらの相違は、気管支局所におけるBリンパ球の過剰な活性化により、Bリンパ球に対する負の制御機構が作動している、あるいは、PWM に反応するBリンパ球の subset が局所に動員されたなどの可能性が考えられた。以上 DPB においては、*in vivo*、*in vitro* において、Bリンパ球の機能に変調がみられることが証明され、DPB の成因を考える上で示唆的な所見であると考えられた。

7. Natural Killer-Interferon 系：腫瘍監視機構における役割

細菌血清学部門 湊 長 博

腫瘍、あるいはその他の外来因子 (ウィルス等) に対する宿主の「自然抵抗性 (natural resistance)」は近年再びその役割が注目されてきているが、とくにそれを担う実体として、いわゆる Natural Killer (NK) 細胞が脚光をあびている。私達はヌードマウスを用いた特異な実験系で、この NK 細胞系の抗腫瘍抵抗における役割とその制御様式について検討を重ねてきた。結果を要約すると以下の如くである。

(1) ノードマウスはそのT細胞機能欠損の故にある種の腫瘍を容易に受け入れ、腫瘍死に至るが、そのような腫瘍を種々のRNAウィルスで持続感染させておく(ウィルスPI腫瘍)と、それを積極的に拒絶する。もとの腫瘍と、ウィルスPI腫瘍の間には、ウィルス抗原存在の有無以外に、増殖速度その他で全く差異は認められず、これらのノードマウスにおける腫瘍原性の相違は、専ら、宿主であるノードマウスの反応によっていると考えられる。

(2) 正常ノードマウスの脾細胞は、*in vitro* で、ウィルスPI腫瘍に対して選択的に細胞障害活性、及びインターフェロン(IFN)の産生を示し、それら活性は、腫瘍の拒絶のいかんと完全に併行した。

(3) この細胞障害活性及びIFN産生にあずかる細胞は、種々の血清学的膜形質の検討より、通常の免疫系要素(T.B細胞、マクロファージ、好中球など)とは異なり、NK細胞と確認された。

(4) *in vivo* 及び *in vitro* で、ウィルスPI腫瘍の接種あるいは接触により、NK活性は著しく増強されるが、これは一義的にIFNによって介在されており、IFNは主たるNR細胞制御因子として生体内で働いている(NK-IFN系)。

(5) 実際に特異的な抗IFN抗血清を少量ノードマウスに投与したのち、ウィルスPI腫瘍を接種すると、前述のNK活性の増強は一切認められず、更に、通常ノードマウスでは腫瘍原性のみられなかったこれら腫瘍細胞は、著しい腫瘍形成をみるのがわかった。興味深いことに、このような抗血清処理マウスでは、同時に高頻度に遠隔転移のおこることも確認された。

以上述べてきた一連の結果は、このような特異な系では、NK-IFN系が第一義的に、ある種の腫瘍拒絶反応を担っていることを、極めて明らかに示しており、より正常の生体系においても、多岐にわたる宿主の抗腫瘍抵抗機構の中で、その一翼を担っていることが、充分に考えられるといえよう。

〔特別講演〕

開発途上国における結核問題と日本の役割

結核予防会結核研究所長 島 尾 忠 男

開発途上国の結核の現状は、統計が公表されている国が少なく、されていてもその信頼度に問題があるため、ツ反応調査の結果から得られる年間感染危険率から推定するしかない。世界各地で行なわれたツ反応調査から算出された感染危険率は2~5%で、しかも全く減少していないか、たとえていてもその速度は遅く、先進諸国の値が0.3%以下で、毎年10~15%の速さで減っているのと対照的である。感染危険率から計算すると、全世界で毎年400~500万人の塗抹陽性の結核患者が発生し、300万人以上の患者が結核で死亡していると推定され、その大半が途上国でおこっているの、結核はいぜんとして大きな問題である。

結核の減少は、生活水準の向上と結核対策の実施によってもたらされるが、途上国では生活の水準は低く、その早急な向上は期待できない。対策の実施についても、保健医療の下部機構の弱さのため、せっかくの進歩した技術の恩恵が末端の患者まで届かない。このため結核は減らないか、減ってもその速度は遅い。

途上国の結核対策の重点は、社会的には人口の大半が住む農村におかれ、疫学的には感染源としての危険が最も高い塗抹陽性患者におかれる。患者の発見は咳や痰などのある患者に痰を出させ、その塗抹標本の鏡検によって行なわれている。X線検査は、経費、保守管理の難しさ等からその使用は限定され、広く全国的な患者発見方法としては用いられていない。発見された患者には化学療法が外来で行なわれるが、1年間の治療でも途中で脱落が多く、完了する者は30~50%しかないというのが途上国での実態である。RFPを含む強化処方による短期化学療法も、経費の関係で極めて少数の国で用いられ始めている程度である。BCG接種はジフテリア、百日咳、破傷風等の予防接種計画の中にくみこまれて実施されている。

このように結核がなおまん延しており、その対策の実施に多くの困難を抱えている途上国に対して、日本から協力が強く期待されている。WHOを通じては、職員の派遣、短期間の顧問や専門家の派遣をさらに活発にする必要がある。予研結核部や予防会結研はWHOの協力センターとして活動している。政府の行なう協力としては、JICA主催で結研が委任を受けて3つの国際結核コースを英語で行なっている。また2国間協力のプロジ

ェクトも行なわれており、その増強を望む声強い。民間団体としての IUAT を通じての協力も、運営への協力や相互援助計画への参加等活発に行なわれている。日本の果すべき役割に対する世界からの期待は大きい。

II 第1回京都呼吸器疾患シンポジウム（昭和56年7月4日・5日、京都平安会館）

主題 1. 薬物性肺臓炎

座長：前川暢夫，司会：泉 孝英

〔話題提供〕 本間行彦（北大一内），角坂育英（千葉大肺癌研），佐藤 勝（慶応大内科），近藤有好（新潟大二内），佐藤篤彦（浜松医大二内），杉浦孝彦（名市大二内），立花暉夫（大阪府立病院），李 龍植（国療近畿中央病院），山本益也（大阪市大一内），前里和夫（関電病院），松島敏春（川崎医大内科）

〔総括討論〕 田村昌士（岩手医大）

主題 2. 放射線肺炎

座長：大島駿作，司会：中西通泰

〔話題提供〕 大和田和弘（東北大抗研），河村一太（東京医大外科），稲富恵子（順天堂大内科），佐藤 勝（慶応大内科），藤本憲弘（京大胸部研），小野公二（京大放射線科），岩田猛邦（天理よろず相談所病院），坂本和久（近畿大四内）

〔総括討論〕 勝田静知（広島大放射線科）

（世話人 前川暢夫，寺松孝，佐川弥之助，大島駿作）

III 特別ゼミナール（昭和56年度）

- | | | | |
|------|-----------|----------------------------|-------------------------------|
| 95回 | 56年3月20日 | 肝疾患の病態と性差——臨床面において—— | （大阪市立大学医学部助教授）門奈 丈之 |
| 96回 | 56年3月27日 | 昆虫のペルオキシゾームの多様性について | （大阪府立大学生物化学）和田野 晃 |
| 97回 | 56年4月28日 | 肺表面活性物質の病理について | （日本医大病理）相原 薫 |
| 98回 | 56年11月7日 | 無機錫による骨折について | （京都女子大学家政学部）新納 英夫 |
| 99回 | 56年11月21日 | 培養血管内皮細胞の加齢について | （東京都老人総合研究所薬理）三井 洋司 |
| 100回 | 56年11月28日 | 肥満児好中球の細胞病理学的研究 | （兵庫県立ことど病院病理）伊藤 宏 |
| 101回 | 57年1月28日 | 市販合成洗剤のマウス肝及び腎に対する超微形態学的影響 | （名古屋市大医学部解剖）花田 美晴 |
| 102回 | 57年2月24日 | 肝細胞膜の病態と臨床 | （東大医学部第一内科）戸田剛太郎 |
| 103回 | 57年3月20日 | 胆汁酸と胆汁生成について | （東京都老人総合研究所生理学部臨床第一研究室長）木谷 健一 |

業 績 目 録

内 科 学 第 一 部 門

〔学 会 発 表〕

1. 結核, 非定型抗酸菌症

池田宣昭, 藤本憲弘, 木下和之, 山鳥英世, 森一弥, 小沢 晃, 吉田敏郎, 柴田安宅, 前川暢夫: Griselimycin 半合成誘導体 27753RP の抗結核作用に関する試験管内実験的検討, 第48回日本結核病学会近畿地方会 (昭56.11)

倉沢卓也, 坂東憲司, 西山秀樹, 久世文幸, 川合満, 中西通泰, 前川暢夫, 内平文章, 小田芳郎, 稲葉宣雄, 長谷光雄, 賀戸重允, 李 英徹, 中井 準, 角田冲介, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦: 種々の基礎疾患を合併せる肺結核症の検討, 第56回日本結核病学会総会 (昭56.5)

五味二郎, 前川暢夫他 (療研); RFP 不成功例の検討, 同

五味二郎, 前川暢夫他 (療研): 新しい治療方法と期間による短期治療の研究 (第1報), 同

村山尚子, 桜井信男, 藤本憲弘, 武藤 真, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫: 前白血病状態に粟粒結核を合併した1症例, 同

李 英徹, 久世文幸, 前川暢夫: M. Kansasii 感染マウスに対する抗結核薬の治療効果, 同

李 英徹, 久世文幸, 前川暢夫: 諸種消毒剤の結核菌に対する殺菌効果, 同

山鳥英世, 池田宣昭, 前川暢夫: 7年間1%小川培地に植え継いだ耐性結核菌の耐性度について, 同

田口善夫, 湯月洋介, 西田 修, 望月吉郎, 種田和清, 網谷良一, 岩田猛邦, 松原恒雄, 小橋陽一郎, 市島国雄: 経気管支生検で診断し得た肺結核症症例について, 第105回日本内科学会近畿地方会 (昭56.9)

前川暢夫, 倉沢卓也: 中等症以上の糖尿病合併肺結核の臨床所見について, 日結研 (昭56.12)

前川暢夫, 久世文幸, 桜井信男: 非定型抗酸菌の諸種薬剤に対する感受性, ST 合剤と Cephem 系抗生物質に対する感受性, 同

2. 腫 瘍

村山尚子, 武藤 真, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫, 金城 明, 清水慶彦: 特異な経過を示した耳下腺混合腫瘍の肺転移症例, 第34回日本肺癌学会関西支部会 (昭56.2)

武藤 真, 村山尚子, 桜井信男, 藤本憲弘, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫: 癌性胸膜炎の治療について, 同

波多 信, 坂本広子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 高 Ca 血症を呈した原発肺癌 8 例の検討, 同

金 栄治, 御前 隆, 坂本広子, 波多 信, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 岩崎博信, 中井準, 庄村東洋, 吉栖正之: 肺過誤腫 6 例の臨床検討, 同

石原享介, 金 栄治, 坂本広子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準他: pulmonary blastoma の1例, 第35回日本肺癌学会関西支部会 (昭56.7)

池 修, 竹内吉喜, カレッド・レシャード, 藤尾 彰, 北野司久, 網谷良一: pulmonary blastoma と思われる1手術例, 同

藤本憲弘, 桜井信男, 村山尚子, 武藤 真, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫: 放射線肺炎の臨床的検討, 第22回日本肺癌学会総会 (昭56.10)

岩田猛邦, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 松原恒雄, 石井松溪, 柳沢 弥, 黒田康正: 原発性肺癌の放射線治療による末梢血好酸球数の動向と放射線肺臓炎との関連, 同

種田和清, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 岩田猛邦, 松原恒雄, 小橋陽一郎, 市島国雄: 肺癌の消化管壁転移の剖検例での検討, 同

木下和之, 山内立夫, 嶋田澄子, 山鳥英世, 池田宣昭

磯部喜博, 鈴木康弘, 竹田俊男, 安平公夫: 悪性腫瘍を伴った Werner's syndrome と考えられる一部検例について, 第36回国立病院療養所総合医学会 (昭56.10)

武藤 真, 村山尚子, 桜井信男, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合満, 中西通泰, 前川暢夫: Lymphoblastic lymphoma の2症例, 第18回日本胸部疾患学会近畿地方会 (昭56.11)

望月吉郎, 湯月洋介, 西田修, 田口善夫, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄他: 喘鳴・呼吸困難を主徴とした気道腫瘍の2症例, 第105回日本内科学会近畿地方会 (昭56.9)

3. 感染症の化学療法

Hideki Nishiyama, Nobuo Maekawa, Masataka Sasada, Kokichi Yamamoto, Tooru Nakamura, Haruto Uchino: Effect of co-Trimoxazole on intraleucocytic bacteria and clinical efficacy of the agent against infections in leukemias and chronic respiratory disease, 12th International Congress of Chemotherapy, 1981, Florence.

中西通泰, 前川暢夫, 川合 満, 倉沢卓也, 西山秀樹, 坂東憲司, 久世文幸: 呼吸器の *P. aeruginosa* 感染症の治療, 第29回日本化学療法学会西日本支部総会 (昭56.11)

前川暢夫, 中西通泰, 倉沢卓也, 坂東憲司, 武藤 真, 稲葉宣雄, 辻野博之: 呼吸器感染症に対する T-1982 の臨床的検討, 同

前川暢夫, 中西通泰, 武藤 真, 藤本憲弘, 桜井信男, 村山尚子, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 内平文章, 網谷良一: 呼吸器感染症に対する SM-1652の臨床的検討, 同

前川暢夫, 中西通泰, 稲葉宣雄, 賀戸重允, 倉沢卓也, 内平文章, 中川圭一他 (共同研究) (呼吸器感染症に対する Cefoperzone (CPZ) と Cefazolin (CEZ) の二重盲検法による薬効比較試験)

西山秀樹, 坂東憲司, 前川暢夫, 笹田昌孝他: 人好中球の貪食殺菌能及び活性酸素産生に対する人スルホ化ガソナグロブリンの増強作用: 第29回日本化学会総会 (昭56.6)

望月吉郎, 田口善夫, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒夫, 小橋陽一郎, 市島国雄: いわゆる末期肺炎の剖検例での検討, 同

4. 心身医学

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 西山秀樹, 河野博臣, 西森美代子, 和多田すみ子, 池見酉次郎: 肺癌の心身医学的研究(1), 肺癌患者の性格傾向とその背景, 第5回日本心身医学会近畿地方会 (昭56.1)

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 西山秀樹, 河野博臣, 西森美保子, 和多田すみ子, 池見酉次郎: 肺癌の心身医学的研究(2), 肺癌患者の性格傾向と消化器癌患者の性格傾向, 同

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 西山秀樹, 河野博臣: 肺内にダニが巣食っていると訴え続ける或中年女患者, 同

河野博臣: シンポジウム「80年代, 心身医学の現況」癌の心身症, 同

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 西山秀樹, 河野博臣, 西森美保子, 和多田すみ子, 池見酉次郎: 肺癌の心身医学的研究(3), 肺癌患者の性格傾向と癌に対する態度, 第22回日本心身医学会総会 (昭56.6)

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 西山秀樹, 河野博臣, 西森美保子, 和多田すみ子, 池見酉次郎: 肺癌の心身医学的研究(4), 肺癌と胃癌との比較, 同

河野博臣: 人間学的アプローチ, 実存分析の立場より, 第6回日本交流分析学会

5. 気管支喘息

川合 満, 倉沢卓也, 前川暢夫, 伊藤 隆, 戸谷康信, 高納修: 副腎皮質ステロイド療法中に発症した肺結核症例の検討, 第31回日本アレルギー学会総会 (昭56.10)

Kawai Mitsuru, Kurasawa Takuya, Nakanishi Michiyasu, Maekawa Nobuo, Yagura Takayasu, Yamamura Yuichi, A new selective β -adrenoceptor stimulant, Procaterol, Its bronchodilatation potency and characteristic in asthmatic patients. 7th. APCDC, 1981. Hongkong.

村山尚子, 武藤 真, 桜井信男, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 川合 満, 前川暢夫: 気管支喘息により肺性心に至った一症例, 第105回日本内科学会近畿地方会 (昭56.9)

5. そ の 他

有本裕子, 山田栄一, 森本真成, 平出 典, 秋口一郎: マイコプラズマ感染によると思われるギランバレー症候群, 心膜炎をきたした1例, 第105回日本内科学会近畿地方会 (昭56.9)

井上圭介, 坂本広子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博臣, 梅田文一, 中井 準, 岡田行功, 西内 素, 庄村東洋: 肺分画症の1症例, 同

東 郁夫, 山田栄一他: 形質細胞性白血病に進展した非分泌型骨髓腫の1剖検例, 第106回日本内科学会近畿地方会 (昭56.12)

亀崎 洋, 古川裕夫, 勝山和明他: 皮膚潰瘍を伴った SLE の1例, 同

梅田文一, 中井 準, 内田博也, 山田栄一, 東 郁夫, 松本秀敏, 宮崎吉平: 慢性閉塞性肺患に伴う刀鞘型気管症の1剖例, 気管, 肺所見を中心に, 第17回日本胸部疾患学会近畿地方会 (昭56.6)

牛田伸一, 前原敬悟, 米津精文, 大久保潤: インコ飼育者にみられた過敏性肺臓炎の1例, 同

坂本広子, 井上圭介, 伊吹康良, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 肺好酸球性肉芽腫症の1例, 同

桜井信男, 武藤 真, 村山尚子, 藤本憲弘, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫, 細川昌則: Churg-Strauss 症候群と思われる1症例, 同

田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄: Cyclophosphamide が著効を奏した限局型ウェジナー肉芽腫症の1例, 同

網谷良一, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 他: 冠不全を呈したアレルギー性肉腫性血管炎と考えられる1例, 同

石原享介, 井上圭介, 片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 恒田時雄, 瀬尾憲正: 急性呼吸不全を来した加湿器肺と思われる1例, 同

カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 池 修, 藤尾 彰, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄: 最近10年間の自然気胸例の検討, 同

武藤 真, 桜井信男, 村山尚子, 藤本憲弘, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫: “Acute reexpansion pulmonary edema” の2例, 同

田中健一, 丸井昭吾: ジクロルベンジンの尿中代謝物とその変異原性について: 第54回日本産業衛生学会, (昭56.4)

田中健一, 丸井昭吾, 三井俊子: オルトトリジンおよびオルトトリジン系アゾ色素の尿中代謝物とその変異原性, 第51回日本衛生学会 (昭56.5)

田中健一, 丸井昭吾, 三井俊子: ジアニジンおよびジアニミジン系アゾ色素の尿中代謝物とその変異原性について, 第10回日本環境変異原学会 (昭56.12)

藤本憲弘, 山鳥英世, 木下和之, 陶 棟土, 吉田敏郎, 池田宣昭, 磯部喜博: Heerfort 症候群を呈し耳下腺腫張と顔面神経麻痺が自然緩解した1症例, 第18回日本胸部疾患学会近畿地方会 (昭56.11)

山田栄一, 有本裕子, 平出 典, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: アレルギー性気管支肺アスペルギルス症の1例, 同

網谷良一, 湯月洋介, 西田 修, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 木野稔也: Aspergillus fumigatus によるアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の1例, 同

竹内吉喜, 池 修, カレッド・レシャード, 藤尾 彰, 北野司久, 岩田猛邦: 最近経験した左肺葉間の気管支嚢胞の1手術例, 同

李 啓充, 湯月洋介, 田口善夫, 西田 修, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 相原雅典: Klebsiella 肺炎膿症の2例, 同

西田 修, 湯月洋介, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄: 骨病変にて発症し15年間の経過を追えた好酸球肉芽腫の1例, 同

山鳥英世, 木下和之, 池田宣昭: 存管支内異物の1例: 第36回国立病院療養所総合医学会 (昭46.10)

〔誌 上 発 表〕

1. 結核, 非定型抗酸菌症

前川暢夫, 結核, 総合臨床: 30:2117~2121, 1981.

前川暢夫: 結核の治療, 初回治療, 臨床医, 7:1769~1771, 1981.

前川暢夫, 中西通泰他: Enviomycin (EVM) による肺結核の再治療, 日胸, 40:239~245, 1981.

倉沢卓也, 坂東憲司, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫, 種田和清, 岩田猛邦, 内平文章, 小田芳郎: 気管・気管支結核症, その臨床所見を中心に, 日胸, 40:407~415, 1981.

中西通泰: 日和見感染 (Opportunistic infection) としての結核症, 日本医師会雑誌86:1360~1366, 1981.

前川暢夫, 山本正彦他 (日本結核病学会教育委員会): 結核症の基礎知識, 結核, 56:85~107, 1981.

李 英徹: 諸種消毒剤の結核菌に対する殺菌効果, 結核, 56:567~576, 1981.

李 英徹, 久世文幸, 前川暢夫, 鈴木康弘: 実験的非定型抗酸菌症に関する研究(3), マウスを対象とした *Mycobacterium intracellulare* 吸入感染の試み, 結核, 46:513~519, 1981.

山鳥英世: ガス曝露下における結核化学療法剤の効果に関する実験的研究, 第1篇, 結核菌発育阻止効果について, 結核, 56:429~433, 1981.

山鳥英世: 同, 第2篇, 殺菌効果について, 結核: 56:465~470, 1981.

山鳥英世: 同, 第3篇, 薬剤耐性獲得について, 結核, 56:521~524.

Kuze Fumiyuki, Kurasawa Takuya, Bando Kenji, Lee Eitetsu, Maekawa Nobuo: In vitro and in vivo effects of various drugs against atypical mycobacteria: Review of infectious disease, 3: 885~897, 1981.

佐藤明正, 本宮 寛, 庄村東洋, 中井 準, 吉栖正之, 東村道雄: 肺病巣から分離したナイアシネスト陽性の *Mycobacterium avium*・*Mycobacterium intracellulare* complex について, 結核, 56:531~534, 1981.

2. 感染症の化学療法

前川暢夫, 中西通泰, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 中川圭一郎 (共同研究): 呼吸器感染症に対する Cefoperazone (T-1551) と Cefazolin (CEZ) の二重盲検法による薬効比較試験成績 (第2報), 感染症学雑誌, 54:798~835, 1980.

前川暢夫, 中西通泰, 網谷良一, 望月吉郎, 賀戸重充, 長谷光雄, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 内平文章, 北本 治他: 呼吸器感染症に対する Mezlocillin と Ampicillin の薬効比較試験, 同, 55:276~324, 1981.

前川暢夫, 中西通泰, 賀戸重充, 小田芳郎, 倉沢卓也, 内平文章, 中川圭一他 (共同研究): 呼吸器感染症に対する Cefoperazone と Cefazolin の二重盲検法による薬効比較試験成績, Chemotherapy, 29:375~424, 1981.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 倉沢卓也, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 岩田猛邦, 塩田憲三他 (共同研究): 同, 29:1223~1277, 1981.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 倉沢卓也, 西山秀樹, 牛田伸一, 長谷光雄, 種田和清, 池田宣昭: 呼吸器感染症に対する Cefmenoxime (SCE-1365) の臨床検討, 同, 29S-1, 476~481, 1981.

中西通泰, 倉沢卓也, 西山秀樹, 藤本憲弘, 前川暢夫: 呼吸器感染症に対する KW-1070の臨床的検討, 同, 29S-2, 311~314, 1981.

中西通泰, 前川暢夫, 久世文幸, 坂東憲司, 賀戸重充, 石橋達男, 張 炎森, 網谷良一, 望月吉郎: 呼吸器感染症に対する Netilmicin の臨床検討, 同, 29-S-3, 225~230, 1981.

3. 気管支喘息

川合 満, 南野正隆, 吉見輝也, 中西通泰, 前川暢夫: 気管支喘息患者に対する Triamcinolone Acetomide の治療効果とその副腎皮質機能に及ぼす影響, 臨床と研究, 58:3787~3793, 1981.

前川暢夫, 川合 満, 松原恒雄, 種田和清, 浜田朝夫, 他 (共同研究): TA-073 の臨床評価, 頓用による Terbutaline sulfate との多施設二重盲検試験成績, 医学のあゆみ, 116:726~739, 1981.

4. 心身医学

河野博臣: 晩期癌患の Care, 精神的・心理的ケア, 臨床外科, 36:345~348, 1981.

河野博臣: 晩期癌患者は何を訴えるか, 死の臨床 1:4, 1981.

河野博臣, 実存的分析的アプローチ, 交流分析研究 6:3, 1981.

河野博臣, 坂本雅紀: 実存分析的アプローチ, 主として癌患者のグループイメージ療法を中心にして, 交流分析研究, 6:28~35, 1981.

5. その他

前川暢夫, 本間日臣他 (共同研究): ペプロマイシンの治療成績, 最新医学, 36:1983~1988, 1981.

前川暢夫, 川合 満, 中西通泰, 久世文幸, 松原恒雄, 望月吉郎, 網谷良一, 池田宣昭, 小沢晃, 李 英徹, 稲葉宣雄, 内平文章, 塩田憲三他 (共同研究): 喀痰喀出困難に対する NA872の臨床評価, Bromhexine (Bisolvon) との比較, 薬理と治療, 9:247~263, 1981.

前川暢夫, 川合 満, 今井節朗, 東向一郎, 江部康二, 武田隆男, 長岡 滋他 (共同研究): 非ステロイド性抗炎症剤 Fentiazac の急性上気道炎に対する薬効についての検討, Ibuprofen を対照とした二重盲検臨床試験成績, 臨床評価, 8:757~788, 1980.

前川暢夫, 川合 満, 池田宣昭, 伊藤和彦他 (共同研究): 慢性呼吸器疾患の喀出困難に対する S-Carboxymethylcysteine の臨床効果, 塩酸メチルシステインおよび inactive placebo を対照とした二重盲検試験, 臨床と研究, 57:1296~1309, 1980.

前川暢夫: 痰, 血痰, 喀血, 診断と治療, 69:1405~1407, 1981.

前川暢夫, 加藤幹夫, 中西通泰, 久世文幸, 泉 孝英, 川合 満, 倉沢卓也, 西山秀樹: 臨床医学の展望, 呼吸器病学, 日, 医, 新, No. 2963, 1981.

中西通泰, 倉沢卓也, 西山秀樹, 坂東憲司, 辻野博之, 山鳥英世: 気管支内異物の3例, 京大胸部研究紀要, 14:9~14, 1981.

金城 明, 和田洋己, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝, 牛田伸一, 倉沢卓也: 縦隔海綿状血管腫の1例, 同, 13:74~80, 1980.

田中健一: オルトトリジン (3,3ジメチルベンジン) の尿中代謝物とその変異原性, 産業医学, 23:168~169, 1981.

田中健一: ジクロロベンジンの尿中代謝中とその変異原性, 同, 23:426~427, 1981.

Kenichi Tanaka, Toshiko Mii, Shogo Marui, Ikuo Matsubara Hiroyuki Igaki, Mutagenicity of urinary metabolites of benzidino and benzidine-based azo dyes, Int. Arch. Ocup. Environ Health, 49: 177~185, 1981.

6. 著書, ほん訳, 報告など

河野博臣: 患者の心と医師の心, 聖教新聞社, 1981.

河野博臣: 死との対話NHK 総合ルポルターズ, 1981.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸他: ほん訳, Ciba collection of Medical Illustrations, Vol. 7 Respiratory System.

中西通泰: ほん訳, Clinical Symposia vol 30, NO 2. The Treatment of Poisoning, Jay M. Arena, Ciba. 1978.

有馬弘毅, 今井節朗, 川口 力, 川合 満他 (京都府医師会): 京都市東清掃工場の操業に係る周辺住民の健康調査報告, 1981.

有馬弘毅, 今井節朗, 川口 力, 川合 満他, (京都府医師会): 京都市の学童に及ぼす環境汚染影響調査報告, 1981.

有馬弘毅, 今井節朗, 川口 力, 川合 満他 (京都府医師会): 自動車排気ガス等による環境汚染影響調査報告, 1980.

中西通泰: 日和見感染 (Opportunistic infection) としての結核症, TB Note NO34, Ciba.

川合 満: 気管支喘息, 治療面について, Medicament News. No. 985. 1981.

川合 満: 最近の呼吸器疾患, 診断と治療Ⅲ, 気管支喘息, 中外製薬, 1981.

7. 研究会, 講演会, その他

網谷良一, 山崎正博, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 小橋陽一郎, 市島国雄, 倉沢卓也, 北市正則: 尿崩症を伴い緩徐に進行するびまん性肺疾患の1例, 第12回びまん性肺疾患研究会 (昭56.2)

波多 信, 坂本広子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: インコ飼育者にみられたびまん性肺疾患の1例, 同.

石原享介, 片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: Aspergilloma 術後にみられたびまん性肺疾患の1例, 第14回びまん性肺疾患研究会 (昭56.9)

種田和清, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 岩田猛邦, 松原恒雄他: ホジキン病の経過中に小空洞を含むびまん性陰影を呈した1例, 同.

李 英徹, 千田道雄, 吉田輝夫, 森上千波, 坂本広子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: じん肺患者で急速なびまん性陰影の増多を示した1例, 第15回びまん性肺疾患研究会 (昭56.12)

網谷良一, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄他: 肺門リンパ節腫大を伴い閉塞性換気障害を呈した1例, 同.

坂東憲司: 癌性胸膜炎の治療について, 第12回京大癌研究会 (昭56.11)

藤本憲弘: 放射線肺炎について, 第1回京都呼吸器疾患シンポジウム (昭56.7)

岩田猛邦, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 松原恒雄他: 原発性肺癌の放射線治療による末梢血好酸球の動向と放射線肺臓炎との関連, 同.

石原享介, 井上圭介, 坂本広子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準他: Pulmonary blastoma の1例, 第20回兵庫県癌懇話会, (昭56.6)

森上千波, 千田道雄, 吉田輝夫, 坂本広子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準他: BAI と放射線治療併用により縮小効果がみられた肺癌2症例, 同.

倉沢卓也, 武藤 真, 村山尚子, 桜井信男, 坂東憲司, 西山秀樹, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫: 気管支鏡下 Bleomycin (BLM) 局注後, 咯血死した3症例の臨床的検討, 第4回日本気管支研究会総会 (昭56.7)

倉沢卓也, 武藤 真, 村山尚子, 桜井信男, 坂東憲司, 西山秀樹, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫: 左主気管支の広汎な狭窄を来した気管支結核症の1例, 第17回近畿気管支鏡懇話会 (昭56.12)

前川暢夫, 中西通泰: T-1982 研究会 (昭56.3)

前川暢夫, 中西通泰: SCE-1365-Cefotiom 比較試験検討会 (昭56.3)

前川暢夫, 中西通泰: BRL-25000 研究会 (昭56.7)

中西通泰: CP-45899 研究会 (昭56.11)

中西通泰: T-1982-CMZ 二重盲検比較試験検討会 (昭56.11)

中西通泰: 気管支拡張症の病因, 京都医師会, 京都胸部医会学術講演会 (昭56)

中西通泰: 胸部平面写真と Anamnesis, 第23回近畿通信診療放射線技術部会総会 (昭59.9)

中西通泰: 気管支拡張症, 浜松市医師会 (昭56.)

中西通泰: 呼吸器感染症と最近の抗生剤, 大和高田市医師会 (昭46.11)

- 中西通泰：呼吸器感染症に対するペングローブの臨床的検討，ペングローブ研究会（昭56.11）
川合 満：アレルギー外来の持ち方，第31回アレルギー同好会（56.1）
川合 満：気管支喘息に関する最近の知見，ことに治療法を中心に，京都医師会（昭56.7）
川合 満：気管支喘息に関する最近の知見，和気医師会（昭56.8）
川合 満：気管支喘息に関する最近の話題，治療法を中心として，呉内科医会（昭56.10）
川合 満：気管支喘息，病因と治療，松本医師会（昭56.11）
川合 満：慢性呼吸器疾患の喀痰喀出困難に対するムコダインの臨床効果，ムコダイン研究会（昭56.11）
河野博臣：呼吸器疾患の心身医学，昭55年度京大胸部疾患研究所学術講演会（昭56.1）
河野博臣：心身症とユング心理学，広島交流分析学会（昭56.3）
河野博臣：ファンタジーグループ，京都ファンタジーグループ研究会（昭56.5）
河野博臣：晩期癌患者の取扱い，北海道医師会（昭56.9）
河野博臣：末期患者のケア，兵庫医大（昭56.10）
河野博臣：末期医療，国立東京第二病院医療研究会（昭56.11）
河野博臣：心身医学と末期医療，神戸大学医学部（昭56.12）
河野博臣：癌の心身医学的アプローチをめぐる，朝日カルチャー，大阪（昭56.12）
河野博臣：心身症とユング心理学，朝日カルチャー，大阪（昭56.12）

内 科 学 第 二 部 門

〔著書，分担執筆〕

- 泉 孝英：4章 呼吸器疾患の病態生理，内野治人編，病態生理よりみた内科学，p. 279～390，金芳堂，京都，1981.
泉 孝英：サルコイドーシス．処方計画法1981年版，p. 670～671，総合臨牀 Vol 30増刊，1981.
長井苑子，泉 孝英：Skin window. 臨床免疫検査法—新しい知識の導入と方法の実際—，臨床免疫 13 (Suppl 3) p. 425～428，1981.

〔綜 説〕

- 泉 孝英，本田和徳，北市正則，満安清孝，藤村直樹：サルコイドーシス．内科，47(2)：236～242，1981.
泉 孝英，平田健雄，藤村直樹：間質性肺炎と免疫，医学と薬学．6(4)：845～850，1981.
泉 孝英，本田和徳，藤村直樹，荏原順一，伊藤春海，藤堂義郎：肺サルコイドーシス．医学のあゆみ，117(9)：650～658，1981.
泉 孝英，藤村直樹：サルコイドーシスにおける免疫機構．臨床医，7(8)：1819～1821，1981.
泉 孝英，藤村直樹，長井苑子，黒住真史：サルコイドーシスにおける免疫異常，モダンメディア，27(10)：543～554，1981.
木野稔也：吸入性昆虫アレルギー．感染・炎症・免疫，11(5)：338～339，1981.
木野稔也：昆虫による吸入性アレルギーの存在．特に蝶，蛾およびトビケラによるアレルギーについて，感染・炎症・免疫，11(5)：340～355，1981.
岩田猛邦，泉 孝英：Wegener 肉芽腫症．現代医療，13(11)：1869～1874，1981.

〔原 著〕

- 木野稔也，泉 孝英，大島駿作，中村正義，乾 修然，渡辺広子，舟木君江，小明今日子：塵肺患者におけるI型アレルギー（IgE 抗体）の検出について，日本胸部臨床，40(10)：826～835，昭56.
門 政男，泉 孝英，大島駿作，川上一郎，中島道郎，杉本幾久雄：肺癌患者における Schizophyllan を用いた免疫療法について，医学と薬学，5(5)：827～838，1981.

Kitaichi, M., Asamoto, H., Izumi, T., Furuta, M: Histological classification of regional lymph nodes in relation to postoperative survival in primary lung cancer. Human Pathol. 12(11): 1000~1005, 1981.

満安清孝, 大島駿作: 健康者及び各種呼吸器疾患における血清 α_1 アンチトリプシン (α_1 AT) に関する研究, 京大胸部研紀要, 14(12): 15~21, 1981.

川上一郎, 堺 幹太, 早川道雄, 沢野哲重, 古田睦広, 船本康申, 楠本秀和, 大島駿作, 泉 孝英, 門 政男, 北市正則: Schizophyllan の癌性胸膜炎に対する効果 (特に細胞学的変化) について, 癌と化学療法, 8(1): 1776~1781, 1981.

有可 正, 百木克夫, 泉 孝英: SPG の AKRマウス腫瘍死に対する延命効果および 3-Methylcholanthrene 発癌に対する抑制および治療効果. 基礎と臨床, 15(5): 2482~2489, 1981.

竹内 寛, 町野満夫, 山口 希, 南出 進, 三谷新一郎, 北市正則, 泉 孝英: 自然気胸を反復した肺 Histiocytosis X の 1 例. 交通医学, 35(3): 204~209, 1981.

吉村誠之, 浅本 仁, 古田睦広, 船本康申, 小池美貴男, 北市正則, 田中 熟, 久保淑子, 中村隆一: 一部生検後に子宮頸部癌が退縮したと思われる 1 例の病理組織学的考察. 癌の臨床, 27(2): 185~189, 1981.

〔報告書, 会議録〕

大島駿作, 木野稔也, 大山口渥, 松井祐佐公: MIF 及び LIF と遅延型皮膚反応の関連性について. 昭和55年度日米医学協力計画報告書 p. 357~389, 1981年3月

泉 孝英: Propionibacterium acnes の Immunomodulation 作用について. 昭和54年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究所研究業績, p. 97~102, 昭和55年3月.

泉 孝英: 血清 ACE, 血清 Lysozyme 値測定の鑑別診断学的意義および予後その関連性について. 昭和54年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績, p. 192~197, 昭和55年3月.

泉 孝英: サルコイドーシスにおける TBLB の意義に関する協同研究 (まとめ). 昭和54年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績, p. 207~211, 昭和55年3月.

泉 孝英: サルコイドーシス肺野病変の予後. 昭和54年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績, p. 266~271, 昭和55年3月.

泉 孝英: SACE の臨床的意義—特に SACE 値と予後およびステロイド剤に対する反応性との関連性—に関する研究. 昭和55年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績, p. 339~341, 昭和56年3月.

泉 孝英他: 肺 Histiocytosis X 全国症例調査報告 (第1報). 昭和56年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績, p. 345~349, 昭和56年3月.

泉 孝英, 北谷文彦, 三上理一郎: 近畿地区における「びまん性肺疾患」に関する調査研究状況. 昭和54年度厚生省特定疾患肺線維症調査研究班研究業績, p. 17~19, 昭和55年3月.

泉 孝英: びまん性肺疾患における血清 ACE, 血清 Lysozyme の測定と鑑別診断学的意義. 昭和54年度厚生省特定疾患肺線維症調査研究班研究業績, p. 161~162, 昭和55年3月.

泉 孝英, 平田健雄: びまん性間質性肺炎における末梢血リンパ球の免疫グロブリン産生能および末梢血を循環する免疫グロブリン分泌リンパ球の測定とその意義の検討. 昭和54年度厚生省特定疾患肺線維症調査研究班研究業績, p. 163~166, 昭和55年3月.

泉 孝英: びまん性細気管支炎全国症例調査報告—第1次 (昭和55年度) 調査報告—昭和55年度厚生省特定疾患間質性肺疾患調査研究班研究業績, p. 11~22, 昭和56年3月.

泉 孝英, 平田健雄: びまん性細気管支炎における寒冷凝集素価の動態に関する研究. 昭和55年度厚生省特定疾患間質性肺疾患調査研究班研究業績, p. 80~82, 昭和56年3月.

泉 孝英, 藤村直樹: 細気管支炎様症状に移行したマイコプラズマ感染症の 1 例. 昭和55年度厚生省特定疾患調査研究班研究業績, p. 90~92, 昭和56年3月.

泉 孝英, 北市正則, 荻原順一: 開胸肺生検で診断された Intravascular bronchioloalveolar tumor (IVBAT) の 1 例, 第24回肺線維症研究会討議録, p. 86~103, 肺線維症研究会, 昭和56年11月.

Izumi, T.: Serum immunosuppressive activities in sarcoidosis. *Sarcoidosis*. p. 57~64, University of Tokyo Press, Tokyo, 1981.

Nishikawa, S., Hirata, T., Izumi, T.: Helper functions in patients with sarcoidosis, *Sarcoidosis* p. 41~56. University of Tokyo Press, Tokyo, 1981.

平田健雄, 泉 孝英: 過敏性肺臓炎における気管支肺胞洗浄液中のリンパ球の Subpopulation と機能の検討ならびに末梢血リンパ球の免疫グロブリン産生能の検討. 昭和55年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績, p. 194~198, 昭和56年3月.

Honda, K., Kado, M., Izumi, T., Osaki, T. et al: TBLB as a diagnostic procedure for sarcoidosis in Japan. A cooperative study in twenty-four hospitals—Bronchology: Research, Diagnostic, and Therapeutic Aspects. *Proceedings of the Second World Congress for Bronchology*, edited by Nakhosteen, J. A., Maassen, W. p. 186~188, Martinus Nijhoff Pub., Hauge, 1981.

山本正彦, 泉 孝英他: サルコイドーシスに対するステロイド治療に関する共同研究 (中間報告). 昭和54年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績, p. 279~281, 昭和55年3月.

北郷 修, 泉 孝英他: サルコイドーシス研究協議会製造番号41-Bクベイン抗原によるクベイン反応の成績 (第2報). 昭和54年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績, p. 252~255, 昭和55年3月.

立花暉夫, 泉 孝英他: サルコイドーシスにおける TBLB 組織像と臨床像, 予後, (中間報告), 昭和55年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績, p. 239~240, 昭和56年3月.

〔学会, 研究会発表〕

大島駿作, 本田和徳, 北市正則, 小林 隆, 山田庄太郎, 長谷川栄一: Myeloperoxidase-halide-hydrogen peroxide システム (MHHS) の Mycobacterium 殺菌作用. 第56回日本結核病学会総会 (1981. 5. 13)

Oshima, S., Chihara, J., Honda, K., Izumi, T.: Brain metastasis from lung cancer ascertained by computerized tomography. 7th Asia Pacific Congress on Diseases of the Chest. Hong Kong (1981, 11, 4)

泉 孝英, 藤村直樹, 大島駿作: 肺野陰影の消失後びまん性細気管支炎症状を呈したマイコプラズマ感染症の一例. 第22回閉塞性肺疾患研究会 (56. 2. 1)

泉 孝英, 藤村直樹: サルコイドーシスにおける SACE の臨床的意義. 第21回日本胸部疾患学会総会 (56. 5. 16)

泉 孝英, 三上理一郎他: 肺 Histiocytosis X に関する共同研究 (第1報) 我が国における肺 Histiocytosis X 症例数の概要について. 第21回日本胸部疾患学会総会 (56. 5. 16)

泉 孝英, 藤村直樹: サルコイドーシス患者にみられる末梢血 T γ cell 増加の臨床的意義について. 第9回日本臨床免疫学会総会 (56. 6. 14)

泉 孝英, 長井苑子, 門 政男, 大島駿作: Thymostimulin の in vivo での IgG 抗体産生増強作用. 第9回日本臨床免疫学会総会 (56. 6. 13)

Izumi, T., Kikuchi, M., Nitani, M., Yamashita, T., Tsubura, E.: Biological response modifying activity of Schizophyllan. *International Symposium on Immunomodulation by Microbial Products and related Synthetic Compounds*. Osaka (1981. 7. 29)

Izumi, T., Fujimura, N., Kitaichi, M.: Serum levels of angiotensin converting enzyme and lysozyme and the clinical course of sarcoidosis. 9th International Conference on Sarcoidosis and other Granulomatous Disorders. Paris (1981. 8. 31)

泉 孝英, 藤村直樹, 長井苑子: 肺野型サルコイドーシス症例におけるステロイド剤の投与経験. 第1回サルコイドーシス研究会総会 (56. 10. 7)

泉 孝英, 長井苑子, 大島駿作: Broncasma Berna の adjuvant 作用に関する検討. 第31回日本アレルギー学会総会 (56. 10. 23)

Izumi, T., Chihara, J., Fujimura, N., Hirata, T., Nagai, S., Oshima, S.: Diagnostic value of cell population (BAL) in sarcoidosis. 7th Asia Pacific Congress on Diseases of the Chest, Hong Kong (1981. 11. 3)

泉 孝英, 近藤有好他: 肺線維症における気管支肺胞洗滌所見の臨床的意義 (協同研究の試み). 第25回肺線維症研究会 (56.11.13)

泉 孝英: 「サルコイドーシス」最近の進歩 1. 基礎面から. 第8回過敏性肺炎研究会 (56.11.14)

木野稔也: アレルギー性疾患における原因アレルゲン検案の意義—我が国におけるアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の原因真菌と気管支喘息における昆虫アレルゲンについて. 第4回京滋喘息懇話会 (56.3.14)

木野稔也: ワークショップ “昆虫, ダニによるアレルギー”, 蝶・蛾およびトビケラによる吸入性昆虫アレルギーについて, 第33回日本衛生動物学会大会 (56.4.1)

木野稔也, 泉 孝英: *Aspergillus Oryzae* による PIE の1例. 第7回過敏性肺炎研究会 (56.5.2)

木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 中村正義, 乾 修然: 塵肺症におけるI型アレルギーの関与について, マンガン鉱石, 天然砥石, タングステン鉱石採掘従事者にみられた高 IgE 値の解析. 第21回日本胸部疾患学会総会 (56.5.16)

木野稔也, 荏原順一, 満安清孝, 本田和徳, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作, 上坂一郎, 太田 茂: *Aspergillus oryzae* によるアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の1例. 第17回日本胸部疾患学会第47回日本結核病学会近畿地方会 (56.6.27)

木野稔也, 松井祐佐公, 大島駿作: 昆虫による気管支喘息の研究. X. トビケラ翅およびカイコ蛾翅のアレルゲン分画と高分子分画によるトビケラアレルギーの存在. 第31回日本アレルギー学会総会 (56.10.22)

門 政男, 満安清孝, 大島駿作: 喫煙刺激によるラット気管支洗浄液中液性成分の変動に関する研究. 第33回日本気管食道科学会総会 (56.9.19)

平田健雄, 藤村直樹, 北市正則, 泉 孝英: 過敏性肺炎における気管支肺胞洗浄液中のリンパ球の Subpopulation について. 第21回日本胸部疾患学会総会 (56.5.17)

平田健雄, 藤村直樹, 泉 孝英: 過敏性肺炎における気管支肺胞洗浄液細胞の機能的検討. 第9回日本臨床免疫学会総会 (56.6.14)

平田健雄, 佐々木義行, 泉 孝英: ヒト免疫グロブリン産生機構の研究. VI. SpA により誘導されるサブレッサー T 細胞の性状と作用機序の研究. 第11回日本免疫学会総会 (56.12.1)

本田和徳, 北市正則, 泉 孝英, 大島駿作, 小林 隆, 山名隆太郎, 長谷川栄一: Myeloperoxidase-halide-hydrogen peroxide システム (MHHS) の *Mycobacterium* 殺菌作用. 第46回実験結核研究会総会 (56.5.12)

本田和徳, 門 政男, 泉 孝英, 大崎 饒他: サルコイドーシスにおける TBLB に関する共同研究. 第1報 TBLB の実施状況と陽性率に関する検討. 第21回日本胸部疾患学会総会 (56.5.16)

本田和徳, 荏原順一, 泉 孝英, 大島駿作, 北市正則, 今井節朗: 散布性粒状影を呈し肺胞上皮癌を疑わせた下肺野結核症の1例. 第17回日本胸部疾患学会第47回日本核病学会近畿地方会 (56.6.27)

本田和徳, 北市正則, 藤村直樹, 満安清孝, 荏原順一, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作: Flexible Bronchofiberscopy (FBS) による肺胞蛋白症に対する肺洗浄療法の経験. 第4回日本気管支研究会総会 (56.7.5)

北市正則, 浅本 仁, 古田睦広: 原発性肺癌症例の剖検肺における肺内重複癌について. 第70回日本病理学会総会 (56.4.1)

北市正則: 病理組織レベルからみたサルコイドーシス, 慢性ペリリウム肺, 過敏性肺炎. 第8回過敏性肺炎研究会 (56.11.14)

藤村直樹, 泉 孝英: BAL (Broncho-alveolar lavage) cell の免疫学. 第7回京都免疫カンファレンス (56.2.21)

藤村直樹, 荏原順一, 満安清孝, 北市正則, 本田和徳, 平田健雄, 門 政男, 大山口渥, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: びまん性肺疾患における気管支肺胞洗滌 (BAL) の診断学的有用性について. 第21回日本胸部疾患学会総会 (56.5.16)

藤村直樹, 泉 孝英, 満安清孝, 北市正則, 本田和徳, 平田健雄, 門 政男, 大島駿作: びまん性細気管支炎症状へと移行したマイコプラズマ肺炎の1例. 第21回日本胸部疾患学会総会 (56.5.16)

藤村直樹, 泉 孝英, 満安清孝, 門 政男, 大島駿作: サルコイドーシスにおける気管支肺胞洗浄液細胞の PWM 刺激による末梢血リンパ球の免疫グロブリン産生反応におよぼす影響に関する検討. 第9回日本臨床免疫学会総会 (56.6.14)

藤村直樹, 荏原順一, 竹内 実, 泉 孝英: サルコイドーシス症例肺マクロファージのT,B 末梢血リンパ球に対する抑制作用. 第1回サルコイドーシス研究会総会 (56.10.7)

藤村直樹, 泉 孝英, 平田健雄, 荏原順一, 大島駿作: 気管支肺泡洗浄細胞 (BAL cell) を用いた肺疾患の免疫学的研究 (第II報) Fibrosing alveolitis 症例における BAL cell 中のリンパ球, 特に免疫グロブリン産生細胞の増加所見について. 第31回日本アレルギー学会総会 (56.10.21)

荏原順一, 藤村直樹, 北市正則, 本田和徳, 平田健雄, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 橋本研二, 吉田丈二: 貧血を伴い, びまん性陰影がくりかえし出現した1例. 第12回びまん性肺疾患研究会 (56.2.28)

荏原順一, 藤村直樹, 北市正則, 本田和徳, 平田健雄, 門 政男, 大山口渥, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 橋本研二: TBLB による蛍光抗体法にて診断した Goodpasture 症候群の1例. 第104回日本内科学会近畿地方会 (56.6.13)

荏原順一, 満安清孝, 本田和徳, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 結核症と鑑別困難であった孤立性小結節影について. 第47回日本結核病学会第17回日本胸部疾患学会近畿地方会 (56.6.27)

荏原順一, 藤村直樹, 北市正則, 本田和徳, 平田健雄, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作: 骨病変を伴い気管支肺泡洗浄細胞分画にて好酸球増多を認めた DIP の一例. 第105回日本内科学会近畿地方会 (56.9.19)

荏原順一, 藤村直樹, 北市正則, 大島駿作, 泉 孝英: 検診で発見され, 次第に陰影の増患がみられたびまん性肺疾患の1例. 第14回びまん性肺疾患研究会 (56.9.26)

荏原順一, 藤村直樹, 本田和徳, 泉 孝英, 藤堂義郎: 肺サルコイドーシスの CT 所見. 第1回サルコイドーシス研究会総会 (56.10.7)

荏原順一, 本田和徳, 泉 孝英, 大島駿作: CT およびシンチグラフィーによる肺癌病期の検討. 第22回日本肺癌学会総会 (56.10.9)

荏原順一, 竹内 実, 藤村直樹, 長井苑子, 大島駿作, 泉 孝英: 慢性ベリリウム肺症例における BAL リンパ球および末梢血リンパ球の性状, mitogen, BeSO₄ に対する反応性に関する比較検討. 第31回日本アレルギー学会総会 (56.10.21)

荏原順一, 藤村直樹, 北市正則, 大島駿作, 泉 孝英: 骨病変を伴い BAL 所見にて Eosinophilic granuloma と鑑別困難であった DIP の1例. 第25回肺線維症研究会 (56.11.13)

荏原順一, 北市正則, 本田和徳, 平田健雄, 泉 孝英, 大島駿作, 並河 靖, 上田千里, 浅本 仁: Mediastinal tumor と胸水にて発見された T₁ lymphoma の1例. 第18回日本胸部疾患学会近畿地方会 (56.11.14)

長井苑子, 松森 昭他: 心電図上虚血性心疾患を疑われたが, 心筋生検にて Löffler's eosinophilic fibroplastic endocarditis を示唆する所見を得た1例. 第104回日本内科学会近畿地方会 (56.6.13)

長井苑子, 白波瀬 均他: 瘧性胸水の1例. 27回日本消化器病学会近畿地方会 (56.9.5)

長井苑子, 泉 孝英: 肺野型サルコイドーシスに続発して熱発症状を呈した非定型抗酸菌症の1例. 第1回サルコイドーシス研究会 (56.10.7)

長井苑子, 門 政男, 木野稔也, 大島駿作, 泉 孝英, 小原孝信, 福間謙助: 肺野型サルコイドーシスに続発して熱発症状を呈した非定型抗酸菌症の1例. 第48回日本結核病学会第18回日本胸部疾患学会近畿地方会 (56.11.14)

長井苑子, 泉 孝英, 山田安民, 普天間健, 本田和徳, 北市正則, 木野稔也, 大島駿作: 両側肺門部陰影拡大所見から Sarcoidosis を疑われたが, 末梢肺血管病変による肺門部の血管影増大であった1例. 第106回日本内科学会近畿地方会 (56.12.5)

長井苑子, 北市正則, 平田健雄, 藤村直樹, 本田和徳, 泉 孝英: 両側肺門部腫張像と肺野周辺の陰影からサルコイドーシスを疑われて入院した一例. 第15回びまん性肺疾患研究会 (56.12.5)

普天間 健, 泉 孝英, 山田安民, 荏原順一, 北市正則, 本田和徳, 門 政男, 大島駿作, 知念良教: PSS 発症17年目に肺扁平上皮癌を合併した1例. 第106回日本内科学会近畿地方会 (56.12.5)

竹内 実, 泉 孝英, 長井苑子, 大島駿作: Propionibacterium acnes の免疫抑制処置マウスにおける immunomodulation 作用. 第31回日本アレルギー学会総会 (56.10.23)

本間日臣, 大島駿作他: 肺癌に対する Schizophyllan (SPG) の臨床効果— Randomized controlled study に

する検討. 第22回日本肺癌学会総会 (56.10.7)

岩井和郎, 北市正則, 泉 孝英他: サルコイドーシスにおける TBLB に関する協同研究, 第2報 TBLB 標本所見の判定基準について. 第21回日本胸部疾患学会総会 (56.5.16)

山本正彦, 泉 孝英他: サルコイドーシスに対するコルチコステロイドの治療効果. 第21回日本胸部疾患学会総会 (56.5.16)

北谷文彦, 泉 孝英他: 肺線維症のステロイド治療とその予後. 第21回日本胸部疾患学会総会 (56.5.17)

小林俊夫, 泉 孝英他: サルコイドーシスの気管支鏡所見—とくに小血管変化について. 第21回日本胸部疾患学会総会 (56.5.17)

Ito, Y., Izumi, T. et al: Pulmonary eosinophilic granuloma in Japan. 9th International Conference on Sarcoidosis and other Granulomatous Disorders. Paris (1981. 8. 31)

Tachibana, T., Kitaichi, M, Izumi, T. et al: Correlation of the histologic findings of TBLB specimens to the prognosis of sarcoidosis. 9th International Conference on Sarcoidosis and other Granulomatous Disorders. Paris (1981. 8. 31).

黒沢元博, 田中哲治, 根本俊和, 苗木隆三, 小林節雄, 柳原行義, 信太隆夫, 木野稔也: 醸造業者の家族に発症したアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の1例とその発症に関する家族内検索 第12回職業アレルギー研究会 (56.7.17)

網谷良一, 湯月洋介, 西田 修, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 木野稔也: *Aspergillus fumigatus* によるアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の1例. 第18回日本胸部疾患学会第48回日本結核病学会近畿地方会 (56.11.14)

古田睦広, 浅本 仁, 小原安喜子, 北市正則, 尾崎元昭, 島田誠一: 先天性結核症の1剖検例. 第70回日本病理学会総会 (56.4.1)

網谷良一, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 小橋陽一郎, 市島国雄, 北市正則, 倉沢卓也: 尿崩症を合併し, 肺血管周囲, 胸膜の著しい線維化と広汎な肺血管内膜肥厚を呈した症例. 第24回肺線維症研究会 (56.7.3)

牛田伸一, 前原敬悟, 米津清文, 大久保滉, 野川福江, 北市正則: インコ飼育者にみられた過敏性肺臓炎の1例. 第17回日本胸部疾患学会第47回日本結核病学会近畿地方会 (56.6.27)

人見滋樹, 前里和夫, 高橋憲太郎, 岡田賢二, 鈴木康之, 奥田 正, 北市正則: 急性悪化をみた血栓症を伴う間質性肺炎の1剖検例. 第18回日本胸部疾患学会第48回日本結核病学会近畿地方会 (56.11.14)

満安清孝, 真砂多計志, 小原幸信, 森吉 猛, 水野 浩, 安倍隆二, 生嶋宏彦, 北市正則: 肺原発と考えられた悪性リンパ腫の2例. 第18回日本胸部疾患学会第48回日本結核病学会近畿地方会 (56.11.14)

〔講演会〕

Shunsaku Oshima: Alveolar Macrophage (招請講演) Special lecture in Bowman Gray School of Medicine. Wake Forest University. North Carolina. U. S. A. (1981. 11).

〔その他〕

大島駿作: 昆虫アレルギー. ラジオ大阪 (1981.5.24)

大島駿作: 間質性肺炎. 肺線維症. 日本短波放送 (1981.11.10)

泉 孝英: 目でみる検査—相関性, ツベルクリン反応と血清 ACE, 綜合臨牀, 30(9): 2386~2388, 1981.

泉 孝英: (質疑応答) じん肺症とサルコイドーシスの鑑別, 内科, 48(4): 594, 1981.

木野稔也: 蝶は害虫か? 国立大学協会会報 (92): 72, 昭56.

胸 部 外 科 学 部 門

〔学 会 発 表〕

1. 腫 瘍

伊藤元彦, 玉田二郎, 山中 晃, 寺松 孝: 肺腺癌産生蛋白の免疫組織学的検討, 肺癌学会関西支部会, (昭56.2)

八木一之, 小鯖 覚, 宮本好博, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 胸腺の扁平上皮癌の1例, 第34回肺癌学会関西支部会, (昭56.2)

小鯖 覚, 八木一之, 宮本好博, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管形成術の2例, 第34回肺癌学会関西支部会, (昭56.2)

宮本好博, 八木一之, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 瀧 俊彦: 肺癌患者における T-cell, B-cell, 第34回肺癌学会関西支部会, (昭56.2)

二宮和子, 八木一之, 小鯖 覚, 宮本好博, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 癌性胸膜炎における胸膜針生検, 第34回肺癌学会関西支部会, (昭56.2)

山中 晃, 高嶋義光, 松延政一, 外村聖一: 二種の異なった形態よりなる腺癌の1症例, 第34回日本肺癌学会関西支部会

高橋憲太郎, 人見滋樹, 前里和夫: Carcinoma in situ と末梢小型肺癌の重複癌の1切除例, 第32回日本肺癌学会関西支部会, (昭56.2)

前里和夫, 高橋憲太郎, 人見滋樹, 鈴木庸之, 奥田 正, 浜本祐三, 土肥佳郎: 悪性胸膜中皮腫の3例, 第34回肺癌学会関西支部会, (昭56.2)

水野 浩, カレッド・レシャード, 北野司久: ヌードマウス移植ヒト肺癌に対する制癌剤感受性テスト—摘出時期の異なる腫瘍の比較—肺癌学会関西支部会, (昭56.2)

北野司久, 水野 浩, 池 修, カレッド・レシャード, 柳沢 弥, 黒田康正, 小橋陽一郎: 集学的治療が奏効した重複癌の2例, 肺癌学会関西支部会, (昭56.2)

伊藤元彦: “胸腺関連腫瘍”の診断と治療, 神戸肺癌懇話会講演, (昭56.2)

伊藤元彦: “胸腺関連腫瘍”への新しいアプローチ, ACCP 日本支部会シンポジウム, (昭56.2)

清水慶彦, 青木 稔, 金城 明, 玉田二郎, 龍 俊彦, 渡部 智, 伊藤元彦, 寺松 孝: 悪性腫瘍, とくに進行性肺癌に対する気管気管支形成術の意義と各種の試みについて, 第81回日本外科学会総会シンポジウム, (昭56.4)

池 修, 竹内吉喜, カレッド・レシャード, 北野司久: 最近経験した縦隔腫瘍の5切除例, 奈良外科学会, (昭56.4)

松原義人: 人工気管による気管分岐部の再建, 第81回日本外科学会総会, (昭56.4)

金城 明, 山中 晃, 玉田二郎, 龍 俊彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 胸腺関連腫瘍の臨床病理学的研究, 胸部外科学会, (昭56.9)

カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 北野司久, 池 修, 藤尾 彰, 種田和清: 後縦隔に発生した褐色細胞腫の1症例, 胸部疾患学会総会, (昭56.5)

北野司久, 永野 治, 池 修, カレッド・レシャード: 肺癌に対する In vivo 制癌剤感受性テストの臨床的応用, 胸部疾患学会総会, (昭56.5)

龍 俊彦, 玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝, 小鯖 覚, 池田貞雄: 肺癌所属リンパ節における類上皮肉芽腫の免疫組織学的検討—リゾチームを指標として—, 第21回日本胸部疾患学会総会, (昭56.5)

八木一之, 小鯖 覚, 宮本好博, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 中葉症候群を呈した気管支内過誤腫の1例, 第129回近畿外科学会, (昭56.5)

小鯖 覚, 他8名: 縦隔に発生した Paraganglioma の2例, 第2回日本胸部外科学会関西地方会, (昭56.6)

住友伸一, 五十部潤, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 当院における高齢者肺癌手術症例の検討. 第24回日

本胸部外科学会関西地方会, (昭56.6)

カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 池 修, 北野司久, 市島国雄, 西田 修, 島田俊夫, 広瀬邦彦, 堀健次郎: 血管内増殖により上大静脈症候群を呈した胸腺腫の1症例, 日本胸部外科学会関西地方会, (昭56.6)

カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 池 修, 北野司久: 気管腫瘍に対する有茎肋間筋及び肋骨片による気管再建術の1症例, 日本胸部外科学会関西地方会, (昭56.6)

藤尾 彰, 齊藤幸人, 笠原憲二, 香川輝正, 北野司久: MMC による術前気管支動脈内注入の効果—切除癌細胞の MMC 感受性に関連して—日本胸部外科学会関西地方会, (昭56.6)

北野司久, 藤尾 彰, カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 池 修: Nu-マウス皮下におけるヒト腫瘍 Xeno-grafts の増殖動態, 厚生省班研究(近藤班), (昭56.6)

住友伸一, 五十部潤, 伊東政敏, 井上律子, 小林君美: 当院における肺癌手術症例の検討, 第38回中部肺癌学会, (昭56.6)

池 修, 竹内吉喜, 藤尾 彰, カレッド・レシャード, 北野司久: のう胞を伴った胸腺脂肪腫の1治験例, 日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.6)

前里和夫, 高橋憲太郎, 人見滋樹: 胸腺腫の11例, 第16回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.6)

伊藤元彦, 玉田二郎: 肺癌治療における YAG-LASER の意義, 厚生省がん研究「大田班」班会議, (昭56.6)

伊藤元彦: 再発肺癌に対する再切除, 厚生省がん研究「大田班」班会議, (昭56.6)

伊藤元彦, 瀧 俊彦, 肺小細胞癌に対する外科療法, 厚生省がん研究「大田班」班会議, (昭46.12)

伊藤元彦: スライドカンファレンス出題, (呼吸器), 臨床細胞学会関西支部会, (昭56.7)

竹内吉喜, 池 修, 藤尾 彰, カレッド・レシャード, 北野司久, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田利清, 岩田猛郎, 松原恒雄: 肺過誤腫切除11例の検討, 日本肺癌学会関西支部会, (昭56.7)

藤尾 彰, 池 修, 竹内吉喜, カレッド・レシャード, 北野司久, 森田吉和: 比較的長期間コントロールしえた黒色腫の1例, 日本肺癌学会関西支部会, (昭56.7)

伊藤元彦, 玉田二郎, 山中 晃, 寺松 孝: 肺良性腫瘍の統計的観察, 肺癌学会関西支部会, (昭56.7)

池 修, 竹内吉喜, 藤尾 彰, カレッド・レシャード, 北野司久: Pulmonary blastoma と思われる1手術例, 日本肺癌学会関西支部会, (昭56.7)

人見滋樹, 前里和夫, 高橋憲太郎: 両側性びまん性陰影を呈した肺癌の気管支鏡所見と TBLB, 第33回日本肺癌学会関西支部会, (昭56.7)

前里和夫, 高橋憲太郎, 人見滋樹: 癌性胸膜炎および心膜炎例の検討, 第35回肺癌学会関西支部会, (昭56.7)

前里和夫, 高橋憲太郎, 人見滋樹: 担瘤症例における皮内反応 (PPD, PHA, SU・PS) の検討, 第35回肺癌学会関西支部会, (昭56.7)

八木一之, 小鯖 覚, 宮本好博, 桑原正喜, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄, 高橋清之: 肺芽腫の1例, 第35回日本肺癌学会関西支部会, (昭56.7)

松原義人, 桑原正喜, 八木一之, 小鯖 覚, 宮本好博, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 塩貝国男, 横川智信, 鈴木捷之, 長谷川徹: 肺癌患者における Tennessee Antigen, 第35回日本肺癌学会関西支部会, (昭56.7)

二宮和子, 松原義人, 八木一之, 小鯖 覚, 宮本好博, 桑原正喜, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄, 横川智信, 鈴木捷之, 長谷川徹: 肺癌患者における CEA の再検討, 第35回日本肺癌学会関西支部会, (昭56.7)

小鯖 覚, 八木一之, 宮本好博, 桑原正喜, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄, 高橋清之: 肺巨細胞癌の一切除例, (昭56.7)

山中 晃, 玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺腺癌産生蛋白の免疫組織学的検討, 第35回日本肺癌学会関西支部会, (昭56.7)

人見滋樹: 煙草と肺がん, 読売テレビ放送, (昭56.9)

伊藤元彦: 肺癌の早期診断, 京都医学会シンポジウム「癌の早期診断」, (昭56.9)

Y. Miyamoto, K. Yagi, S. Kosaba, T. Taki, K. Ninomiya, Y. Matsubara, R. Hatakenaka, T. Funatsu,

S. Ikeda; Prosthetic reconstruction of trachea and carina for malignant tumors, 29th Congress of the Societe Internationale de Chirurgie, Montreux (Switzerland), (昭56.9)

カレッド・レシャード, 池 修, 竹内吉喜, 藤尾 彰, 北野司久: 縦隔腫瘍自験例の診断および病理組織学的検討, 胸部外科学会総会, (昭56.9)

玉田二郎, 伊藤元彦: シンポジウム癌集団検診の現況: 肺癌集検, 第19回日本癌治療学会, (昭56.9)

二宮和子, 池田貞雄, 八木一之, 小鯖 覚, 宮本好博, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志: 肺癌の癌性疼痛に対する Brompton mixture の鎮痛効果, 第19回日本癌治療学会総会, (昭56.9)

北野司久, 竹内吉喜, 池 修, カレッド・レシャード, 藤尾 彰, 西山陽子, 後藤光良, 杉山正敏, 齊藤幸人, 笠原憲三: 肺癌手術後の化学療法—In vivo 感受性テストと薬剤の血中有効濃度, 癌治療学会総会, (昭56.9)

北野司久, 池 修, 竹内吉喜, カレッド・レシャード, 藤尾 彰: 肺癌に対する in vivo 制癌剤感受性の検討, 制癌剤適応研究会, (昭56.10)

松原義人, 桑原正喜, 池田貞雄: 肺癌患者における Tennessee Antigen 測定, 第40回日本癌学会総会, (昭56.10)

池田貞雄, 桑原正喜, 松原義人, 伊藤元彦, 寺松 孝: 腫瘍特異抗原による肺癌患者の皮内反応, 第40回日本癌学会総会, (昭56.10)

伊藤元彦, 高嶋義光, 玉田二郎, 寺松 孝, スードマウス移植縦隔奇形腫群腫瘍5株の形能と機能, 日本癌学会総会, (昭56.10)

北野司久, 光岡明夫: In vivo 制癌剤感受性試験の研究, 癌学会総会, (昭56.10)

高嶋義光, 足達敏博, 伊藤元彦, 翠川 修: 「ヒト縦隔由来 Teratocarcinoma 培養細胞株 (HMT cells) に対する抗体による培養細胞が産生する蛋白質に関する研究」, 第40回日本癌学会総会, (昭56.10)

北野司久, 竹内吉喜, 池 修, 藤尾 彰, カレッド・レシャード, 西山陽子, 杉山正敏: 肺癌に対する In vivo 制癌剤感受性テストの研究 (第2報), 第22回肺癌学会総会, (昭56.10)

山中 晃, 玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺腺癌産生蛋白の免疫組織学的検討, 第22回日本肺癌学会総会,

青木 稔, 玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝: ベンツピレン投与によるスードマウス移植ヒト気管支の発癌実験, 第22回日本肺癌学会総会, (昭56.10)

前里和夫, 人見滋樹, 高橋憲太郎: 癌性胸膜炎および癌性心膜炎の検討, 第22回日本肺癌学会総会, (昭56.10)

松原義人, 桑原正喜, 二宮和子, 八木一之, 小鯖 覚, 宮本好博, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における Tennessee Antigen の意義, 第22回日本肺癌学会総会, (昭56.10)

瀧 俊彦, 伊藤元彦, 寺松 孝, Monoclonal antibody による肺癌患者 T cell subset に関する検討 (第1報), 第22回日本肺癌学会総会, (昭56.10)

池田貞雄, 桑原正喜, 松原義人, 八木一之, 小鯖 覚, 宮本好博, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志: 肺癌患者における T・B リンパ球と皮内反応, 第22回日本肺癌学会総会, (昭56.10)

二宮和子, 松原義人, 八木一之, 小鯖 覚, 宮本好博, 桑原正喜, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における CEA の再検討, 第22回日本肺癌学会, (昭56.10)

佐藤新太郎: 誤診 診断困難な肺癌症例の検討, 第22回日本肺癌学会総会, (昭56.10)

住友伸一, 五十部潤, 伊東政敏, 井上律子, 小林君美: 組織型からみた肺癌切除例の予後, 第36回国立病院療養所総合医学会, (昭56.10)

佐藤新太郎, 安淵義男: 肺巨細胞癌及び cholangioma の肺転移の細胞像, 第36回国立病院療養所総合医学会ポスターセッション, (昭56.10)

寺松 孝: シンポジウム 転移性腫瘍 (特別発言), 第43回日本臨床外科医学会総会, (昭56.10)

伊藤元彦: 胸腺関連瘍に関する実験的研究, 国立大学附置研究所談話会, (昭56.11)

Motohiko Ito, Jiro Tamada, Akira Yamanaka, Akira Kaneshiro, Takashi Teramatsu; "Clinicopathological studies on thymus related tumor." APCDC (昭56.11)

北野司久, 池 修: 転移性肺腫瘍に対する制癌剤感受性テストの検討, 厚生省班研究 (近藤班), (昭56.11)
中村達雄, 五十部潤, 渡部 智, 蔵屋敷隆二, 伊藤元彦, 寺松 孝: 膿胸後胸膜に発生したと思われる扁平上皮癌の2例, 第48回日本結核病学会, 第18回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.11)

藤尾 彰, 竹内吉喜, 池 修, カレッド・レシャード, 北野司久: 左気管支発生腫瘍の2切除例, 近畿外科学会, (昭56.11)

小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌に対する pleuropneumonectomy, 第130回近畿外科学会, (昭56.11)

千葉 渉, 田村康一, 玉田二郎, 清水慶彦, 寺松 孝: 心房中隔欠損症根治術を同時に施行した肺癌切除例の経験, 第130回近畿外科学会, (昭56.11)

人見滋樹: 肺癌と肺結核の鑑別診断, 福島区, 西区, 此花区, 大淀区合同学術研究会, (昭56.11)

山田和範, 田中 暁, 平岩卓根, 秋山文弥, 伊藤忠弘: 肺に原発し扁平上皮癌を合併した悪性線維性組織球腫の1例, 第40回日本胸部疾患学会東海地方会, (昭56.11)

和田洋己: 特別報告“胸腺関連腫瘍”第40回日本胸部疾患学会東海地方会, (昭56.11)

和田洋己, 西村敏弘, 他, “心臓への浸潤を示した悪性胸腺腫の超音波断層図所見”, 第38回日本超音波学会総会, (昭56.11)

人見滋樹: 縦隔腫瘍について, 福島区医師会学術研究会, (昭56.12)

カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 池 修, 藤尾 彰, 北野司久: 気管支内腫瘍の2切除例, 近畿気管支鏡懇話会, (昭56.12)

2. 胸腺, 免疫

畠中陸郎, 小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 松原義人, 船津武志, 二宮和子, 池田貞雄: 高齢者の胸腺腫合併重症筋無力症に対する外科療法の1例, 第18回胸部疾患学会関西地方会, (昭56.11)

3. 結 核

金城 明, 寺松 孝: 要望課題V. 最近の外科療法, 高齢者肺結核の外科的療法, 第56回結核病学会, (昭56.4)
Akira Kaneshiro, Toru Shindo, Takashi Teramatsu: Permanent drainage through chest wall for cavity of pulmonary tuberculosis with positive sputum, APCDC (昭56.11)

4. 人工材料

渡部 智: 酵素固定化を応用した機能性医用材料の開発, 胸部研学術講演会, (昭56.1)

渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝, 日野常稔: 酵素固定化を応用した生体機能性医用材料. その臨床応用の基礎的研究, 繊維学会昭和56年年次大会研究発表会, (昭56.5)

H. Kato, H. Mizuno, K. Tamura, S. Watanabe, Y. Shimizu, T. Teramatsu, Y. Kitamura, M. Hirabayashi: “Experimental Study on Artificial Ceramic Bone for Ribs and Sternum.” International Society for Artificial Organs: (昭56.7).

Watanabe, S., and Teramatsu, T.: Application of immobilized enzymes for biomaterials used in the field of thoracic surgery, 6th Enzyma Engineering Conference, (昭56.9).

池田貞雄, 他8名: 人工気管による気管分岐部の再建 (シネシンポジウム), 第34回日本胸部外科学会総会, (昭56.9)

田村康一, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 日野常稔: Polyvinyl Alcohol-Silica Composite の人工血管への応用—血液抗凝固性の検討, 第19回日本人工臓器学会, (昭56.11)

渡部 智, 中村達雄, 清水慶彦, 寺松 孝, 日野常稔: 抗菌性医用材料としての抗生物質混合-コラーゲン合成高分子複合体の作製, 第19回日本人工臓器学会大会, (昭56.11)

渡部 智, 中村達雄, 清水慶彦, 寺松 孝: 異種生物由来医用材料ヘテログラフトを応用した酵素固定化機能性医用材料, 第3回日本バイオマテリアル学会大会, (昭56.11)

清水慶彦, 日野常稔: 我々が開発した医用複合材料の現状と問題点, 第3回日本バイオマテリアル学会大会, 特別講演 (昭56.11)

中村達雄, 渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝, 徳重正信, 湯元 昇: 代用皮膚材ウシ結合組織精製コラーゲン膜の安全性についての基礎的実験, 第3回バイオマテリアル学会大会学術講演, (昭56.11)

加藤弘文, 寺松 孝: アルミナ・セラミックスによる人工胸骨, 第1回整形外科セラミック・インプラント研究会, (昭56.11)

S. Matsunobe, Y., Shimizu, T. T. Teramatsu, et al: Clinical and in vitro data on CO₂ removal by hemodialysis, Informal workshop "Methods and Means of Metabolic CO₂ Removal" IIIRD ISAO (Paris), 1981.

松延政一, 清水慶彦, 寺松 孝, 他: 血液透析による呼吸管理—透析による CO₂ の除去—, 第19回人工臓器学会総会 (昭56.11)

松延政一, 山中 晃, 高嶋義光, 外村聖一: 血液透析による CO₂ 除去, 第19回社会保険医学会総会, (昭56.10)

5. 心・血管

山口正人, 住友伸一, 中納誠也, 伊東政敏, 井上律子, 小林君美, 他五名: 左房粘液腫の1治験例, 第54回日本循環器病学会東海地方会, (昭56.2)

千原幸司, 篠崎 拓, 島本光臣, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥: Apico-aortic Bypass 手術3例の検討, 第54回日本循環器学会東海地方会, (昭56.2)

平岩卓根, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 岡田賢二, 秋山文弥: 人工ペースメーカー植込み例における遠隔期感染例2例, 第54回日本循環器学会東海地方会, (昭56.2)

岡田賢二, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 平岩卓根, 秋山文弥: 心房内粘液腫3例の外科的検討: 第54回日本循環器学会東海地方会, (昭56.2)

伊東政敏, 住友伸一, 中納誠也, 井上律子, 小林君美: 本院における A・C バイパス手術の経験, 第103回岐阜外科集談会, (昭56.2)

篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥: 弁置換術近接期の合併症: 第11回日本心臓血管外科学会総会, (昭56.3)

小林君美: 「特別講演」心臓手術適応について, 第8回高山医師会, (昭56.4)

伊藤政敏, 五十部潤, 住友伸一, 井上律子, 小林君美: A・C バイパス術の経験, 第24回関西胸部外科学会, (昭56.6)

阿部弘毅, 立石昭三, 他: 「急性心筋硬塞に合併した心室中隔穿孔の1治験例」, 第24回胸部外科関西地方会, (昭56.6)

千原幸司, 篠崎 拓, 島本光臣, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥: 高令者 (65才以上) 開心術症例の検討—成績と問題点—, 第24回日本胸部外科学関西地方会 (昭56.6)

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥: 冠動静脈瘻6例の検討, 第24回日本胸部外科学会関西地方会 (昭56.6)

篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥: 心臓手術前後の細菌性心内膜炎症例の検討, 第24回日本胸部外科学会関西地方会 (昭56.6)

秋山文弥: 日本に於ける心臓外科の現況, 中華医学会黒竜江省支部主催講演会, 於ハルビン (昭56.8)

秋山文弥: 胸部疾患の CT 診断, 第13回日本胸部外科学会卒後教育セミナー (昭56.9)

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥: 異型狭心症の外科治療—成績と Spasm 制御法の検討—, 第34回日本胸部外科学総会 (昭56.9)

篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥: IHSS の外科治療—特に Apico-aortic bypass 手術の問題点—, 第34回日本胸部外科学会総会 (昭56.9)

伊東政敏, 五十部潤, 住友伸一, 井上律子, 小林君美: 本院における A・C バイパスの経験, 第24回岐阜循環器疾患研究会, (昭56.11)

高橋憲太郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 開心術後に留置した Swan-Ganz カシータによる遷延性肺合併症の1例, 第40回日本胸部疾患学会東海地方会 (昭56.11)

井村正史, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 秋山文弥: 興味ある収縮性心膜炎の1例, 第40回日本胸部疾患学会東海地方会 (昭56.11)

山中 晃, 高嶋義光, 松延政一, 外村聖一, : 開胸術中における Swan-Ganz カテーテルの使用経験, 第19回日本社会保険医学会, (昭56.10)

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 末梢動脈狭窄症に対する血行再建術式の検討, 第120回静岡県外科医会集談会 (昭56.12)

6. 一般胸部疾患

渡部 智, 清水慶彦, 田村康一, 寺松 孝, 加藤弘文: 漏斗胸手術の短期成績について, 第2回日本変形胸郭研究会 (昭56.2)

前里和夫, 高橋憲太郎, カレッド・レシャード, 人見滋樹, 鈴木庸之, 奥田 正: 一次性全身性アスペルギローシスの1例, 第25回京阪神合同 CPC, (昭56.2)

住友伸一, 中納誠也, 伊東政敏, 井上律子, 小林君美: 巨大なる胸部腫瘤影を呈した1例, 第103回岐阜外科集談会, (昭56.2)

浜本康平, 立石昭三, 他, 「自発気胸と誤った Pneumatocele の1例, 第31回近畿救急研, (昭56.2)

立石昭三: 「気道内異物とレスピレーター」同上救急隊員部会講演, (昭56.2)

前里和夫, 高橋憲太郎, 人見滋樹: 気管支鏡の合併症, 第15回近畿気管支鏡懇話会, (昭56.3)

人見滋樹: 小児の胸部レントゲン診断, 寝屋川市門真市医師会学術講演会, (昭56.3)

人見滋樹: 縦隔疾患の読影: 寝屋川市門真市医師会学術講演会, (昭56.4)

宮本好博, 他: 巨大肺嚢胞症の成因とその手術成績, 第81回外科学会, (昭56.4)

カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 池 修, 北野司久: 胸部外科における CT の診断的意義, 奈良外科学会, (昭56.4)

宮本好博, 八木一之, 小鯖 寛, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄, 瀧 俊彦: 気管気管支軟化症の診断と治療, 第21回日本胸部疾患学会総会, (昭56.5)

八木一之, 小鯖 寛, 宮本好博, 畠中好博, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 池田貞雄, 船津武志: 巨大肺嚢胞症の外科的治療の成績, 第21回日本胸部疾患学会総会, (昭56.5)

二宮和子, 八木一之, 小鯖 寛, 宮本好博, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 胸膜炎における針生検の意義, 第21回日本胸部疾患学会総会, (昭56.5)

カレッド・レシャード, 人見滋樹, 前里和夫, 他4名: 抗生物質, 抗癌剤の胸膜透過性の検討, 第21回日本胸部疾患学会総会, (昭56.5)

前里和夫, 高橋憲太郎, 人見滋樹, 立花暉夫, 岡田静雄, 上田英之助: サルコイドーシスの気管支鏡検査 (気管支・肺生検・内視鏡所見, 気管支, 肺胞洗浄), 第21回日本胸部疾患総会, (昭56.5)

人見滋樹: 胸部レントゲン診断—総論—, 大阪府福島区医師会学術講演会, (昭56.5)

渡部 智, 中村達雄, 金城 明, 玉田二郎, 瀧 俊彦, 田村康一, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 胸壁変形の1治験例, 第129回近畿外科学会, (昭56.5)

池 修, 竹内吉喜, カレッド・レシャード, 北野司久, 小泉俊之, 武田博士: 食道平滑筋腫の1手術例, 近畿外科学会, (昭56.5)

人見滋樹: 肺気腫, 気胸, 肺のう胞症の読影, 寝屋川市門真市医師会学術講演会, (昭56.6)

宮本好博, 他8名: 気管切開後の肉芽腫性気管狭窄の3例, 第24回関西胸部外科学会, (昭56.6)

人見滋樹, 前里和夫, 高橋憲太郎: 皮膚瘻を伴う陳旧性膿胸, 胸囲結核の外科治療9例の検討, 第24回日本胸部外科学会関西地方会, (昭56.6)

前原和夫, 高橋憲太郎, 人見滋樹: 巨大ブラの8手術例, 第24回日本胸部外科学会関西地方会, (昭56.6)

中村達雄, 田村康一, 玉田二郎, 竹内吉喜, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 可動性塊状陰影をもつ膿胸の一

手術症例, 第24回日本胸部外科学会関西地方会, (昭56.6)

金城 明, 渡部 智, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 変形強度で非対称的な漏斗胸手術における二三の工夫——非翻転胸骨板成形の試み——第24回, 関西胸部外科学会, (昭56.6)

高橋憲太郎, 人見滋樹, 前里和夫: 肝性胸水の検討, 第16回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.6)

玉田二郎, 田村康一, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: YAG レーザーによる Endobronchial Surgery の臨床経験, 第17回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.6)

竹内吉喜, 池 修, 藤尾 影影, カレッド・レシャード, 北野司久: 最近経験した肺分画症の1例, 日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.6)

カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 池 修, 藤尾 影, 北野司久, 田口善夫, 望月吉郎, 綱谷良一, 種田和清, 岩田猛郎, 松原恒雄: 最近10年間の当院自然気胸例の検討, 日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.6)

池田貞雄, 小鯖 寛, 八木一之, 宮本好博, 桑原正喜, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志, 塩見国男, 鈴木捷之, 長谷川徹: 呼吸器疾患患者における血中クリプトコッカス抗原の検索, 第47回日本結核病学会近畿地方会, 第17回日本胸部疾患学会近畿地方会.

八木一之, 小鯖 寛, 宮本好博, 二宮和子, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 気管ボタンによる慢性呼吸不全患者の管理, 第47回日本結核病学会近畿地方会, 第17回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.6)

小鯖 寛, 八木一之, 宮本好博, 桑原正喜, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 中葉症候群の臨床的検討, 第47回日本結核病学会近畿地方会, 第17回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.6)

人見滋樹: 空洞陰影の読影, 大阪府福島区医師会学術講演会, (昭56.6)

五十部潤, 住友伸一, 伊東政敏, 井上律子, 小林君美: 気管支鏡下に異物を摘出した1例, 第57回日本結核病学会東海地方学会, 第39回日本胸部疾患学会東海地方学会, (昭56.6)

前里和夫, 高橋憲太郎, 人見滋樹, 立花暉夫, 岡田静雄, 上田英之助: びまん性肺疾患に対する TBLB—特にサ症例について, 第4回日本気管支研究会総会, (昭56.7)

玉田二郎: シンポジウム YAG Laser の Endobronchial Surgery への応用, 第4回日本気管支研究会総会, (昭56.7)

人見滋樹, 前里和夫, 高橋憲太郎: 胸部X線写真正常で気管支鏡で初めて発見された気管支内病変, 第4回日本気管支研究会総会, (昭56.7)

小鯖 寛, 他8名: 気管気管支軟化症の臨床, 第4回気管支研究会総会, (昭56.7)

北野司久, カレッド・レシャード: 気管カルチノイドに対して肋骨付着有茎性肋間筋弁による気管再建の1例, 気管支研究会総会, (昭56.7)

渡部 智, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝: 胸部外科領域におけるモワレットポグラフィーの応用, 第4回関西モワレ懇話会, (昭56.7)

人見滋樹: 気胸様陰影の読影, 大阪府福島区医師会学術講演会, (昭56.7)

人見滋樹: 無気肺像を呈する呼吸器疾患, 寝屋川市門真市医師会学術講演会, (昭56.8)

前里和夫, 人見滋樹, 高橋憲太郎, 岡田賢二, 他2名: 再三救命処置を要した気管, 気管支狭窄症の1例, 第16回近畿気管支鏡懇話会, (昭56.8)

人見滋樹: びまん性肺疾患の診断, 寝屋川市門真市医師会学術講演会, (昭56.9)

谷口隆司, 立石昭三, 他: 「ARDS 症状を呈した胸部外傷の1例」, 第33回近畿救急研, (昭56.9)

橋本圭司, 立石昭三, 他: 「びまん性撒布性粒状影を示した1例」, 第14回びまん性肺疾患研究会, (昭56.9)

北野司久, カレッド・レシャード: 胸郭変形に対する外科療法の研究, 胸部外科学会総会, (昭56.9)

畠中陸郎, 他8名: 高令者の肺外科における呼吸機能の限界, 第34回日本胸部外科学会総会, (昭56.9)

船津武志, 他9名: 気管気管支軟化症の外科的治療, 同上, (昭56.9)

渡部 智, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝: 胸郭変形矯正術についての基礎的ならびに臨床的研究, 第34回日本胸部外科学会総会, (昭56.9)

玉田二郎, 田村康一, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: YAG レーザーによる Endobronchial Surgery の臨床

的研究, 第34回日本胸部外科学会, (昭56.9)

前里和夫, 人見滋樹, 岡田賢二: サルコイドーシスの気管支鏡研見, 第一回サルコイドーシス研究会, (昭56.10)

加藤弘文, シンポジウム“学童期における側彎症ならびに胸郭変形とその対策”区23回学校保健学会, (昭56.10)

小鯖 寛, 他: 気管気管支軟化症の病態とその手段手技(シネ)第43回日本臨床外科医学会総会, (昭56.10)

松原義人, 他: 高令者における自然気胸と手術適応, 第43回日本臨床外科医学会総会, (昭56.10)

人見滋樹: 無気肺陰影の診断, 福島区医師会学術講演会, (昭56.10)

カレッド・レシャード, 池 修, 竹内吉喜, 藤尾 彰, 北野司久, A study on pleural permeability using antibiotics and anticancer drugs as indicators., アジア太平洋胸部疾患学会, (昭56.11)

山崎文郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 高橋憲太郎, 井村正史, 秋山文弥: 特発性血気胸の1例, 第40回日本胸部疾患学会東海地方会, (昭56.11)

谷口 隆, 立石昭三, 他: 家族内発生をみた Psittacosis, 第18回胸部疾患近畿地方会, (昭56.11)

立石昭三, 他: 「在宅酸素療法における酸素の値段について」第18回胸部疾患近畿地方会, (昭56.11)

千葉 渉, 瀧 俊彦, 横見瀬裕保, 中村達雄, 金城 明, 玉田二郎, 田村康一, 渡部 智, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 縦隔気管支性囊種の1例, 囊腫内容液中のアミラーゼ, リゾチームの証明, 第18回胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.11)

人見滋樹, 前里和夫, 高橋憲太郎, 岡田賢二, 鈴木庸之, 奥田 正, 北市正則: 急性悪化をみた血栓症を伴う間質性肺炎の1剖検例, 第18回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.11)

立花暉夫, 伊藤裕康, 人見滋樹, 前里和夫, 長期経過追求中の Gold pneumonitis 症例, 第18回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.11)

前里和夫, 人見滋樹, 高橋憲太郎, 岡田賢二, 鈴木庸之, 奥田 正, 岡田静雄: 粟粒結核を併発した同胞発症の悪急性型肺線線症の1剖検例, 第18回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.11)

小鯖 寛, 八木一之, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 二宮和子, 池田貞雄: 巨細胞性間質性肺炎(GIP)の2例, (第48回日本結核病学会近畿地方会, 第18回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.11)

船津武志, 小鯖 寛, 八木一之, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 池田貞雄, 高橋清之: 気管気管支軟化症における剖検例の検討, 第48回日本結核病学会近畿地方会, 第18回日本胸部疾患学会近畿地方会

池 修, 竹内吉喜, カレッド・レシャード, 藤尾 彰, 北野司久: 感染症を合併した一側無気肺に対するurokinase 肺洗浄法の効果, 日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.11)

竹内吉喜, 池 修, カレッド・レシャード, 藤尾 彰, 北野司久, 岩田猛郎: 最近経験した左肺葉間の気管支囊胞の1手術例, 日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭56.11)

カレッド・レシャード: 癌性胸膜炎の基礎と臨床, 日中胸部疾患学術交流会, (昭56.11)

池 修, 竹内吉喜, カレッド・レシャード, 藤尾 彰, 北野司久: 胸骨翻転術に対する肺機能評価, 近畿外科学会, (昭56.11)

Jiro Tamada, Motohiko Ito, Takashi Teramatsu,: Clinical Study of Broncho fiberoscopic Nd-YAG Laser Surgery, The 4th Congress of the International Society for Laser Surgery, (昭56.11)

住友伸一, 五十部潤, 伊東政敏, 井上律子, 小林君美, 他1名: 肋間動脈, 肺動脈瘤の1例, 第58回日本結核病学会東海地方学会, 第40回日本胸部疾患学会東海地方学会, (昭56.11)

〔誌 上 発 表〕

1. 腫 瘍

寺松 孝, 清水慶彦, 玉田二郎, 金城 明, 牧本一男: 縦隔甲状腺癌の外科的治療, 臨床胸部外科1(1): 97, 1981.

人見滋樹, 前里和夫, カレッド・レシャード, 高橋憲太郎, 永田 格, 奥田 正, 鈴木庸之: 甲状腺癌の肺転移23例の検討—RI 治療後の1切除例および治療法を中心に—, 肺癌21(2): 151, 1981.

北野司久, カレッド・レシャード, 光岡明夫, 齊藤幸人, 藤尾 彰: 癌化学療法の効果をもつて一血中活性化物質を指標にして一, 日本癌治療学会誌16(2): 92, 1981.

北野司久, カレッド・レシャード, 光岡明夫: 肺癌における Carcino-Embryonic Antigen の研究, 日本癌治療学会誌16(2): 130, 1981.

人見滋樹: 肺癌における縦隔鏡検査と胸腔鏡検査, 今日の臨床外科(24): 95, 1980.

玉田二郎: Endobronchial Surgery とくに Endoscopic Laser Surgery をめぐって-YAG Laser を中心に, Bronchofiberscopic Nd-YAG Laser Surgery, 気管支学3(4), 1981.

伊藤元彦: 肺がん・縦隔・胸郭疾患, 外科療法, 内科セミナー, : 115, 1981.

伊藤元彦: 転移性肺腫瘍に対する手術療法, 外科治療44(6): 647, 1981.

光岡明夫, 伊藤元彦, 鈴木康弘: 肺転移した滑膜肉種の1例—悪性中皮腫との鑑別—, 日本胸部臨床 (40): 275, 1981.

前里和夫, カレッド・レシャード, 高橋憲太郎, 人見滋樹, 鈴木庸之, 趙 輝栄: 肺門部早期肺癌の1治療例—本邦報告101例の文献的考察—, 日本胸部臨床(40): 577, 1981.

Y. Miyamoto, K. Yagi, S. Kosaba, T. Taki, K. Ninomiya, Y. Matsubara, R. Hatakenaka, T. Funatsu, and S. Ikeda: Prosthetic reconstruction of trachea and carina for malignant tumors., World Journal of Surgery 5(3),

杉山正敏, 後藤光良, 西山陽子, 中島譲二, 山科 肇, 光岡明夫, 北野司久: Clinical Pharmacist への試み—癌化学療法を中心に—, J. Nippon Hospit. Pharmac. Assoc. (16) 352, 1980.

玉田二郎, 寺松 孝: 肺癌の化学療法: 臨床と研究58(8), 1981.

伊藤元彦, 高嶋義光, 山中 晃, 金城 明, 玉田二郎, 寺松 孝: ノードマウスに継代移植された縦隔奇形腫群腫瘍の形態学的検討, 日本胸部疾患学会雑誌19(7): 487, 1981.

清水慶彦, 青木 稔, 金城 明, 玉田二郎, 瀧 俊彦, 渡部 智, 伊藤元彦, 寺松 孝, 悪性腫瘍, とくに進行性癌に対する気管支形成術の意義と各種の試みについて, 日本外科学会誌, 82(9): 982, 1981.

玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝: 縦隔 Germ Cell Tumor 3例とそのノードマウス継代移植における AFP, HCG 産生, 癌の臨床27(10), 1981.

北野司久, カレッド・レシャード, 光岡明夫: Nu-マウスを用いる制癌剤感受性検査法 (第4報), 最新医学 36(8): 1636, 1981.

北野司久, 藤尾 彰, 杉山正敏: Nu-マウス移植ヒト肺癌に対する制癌剤感受性テストの研究, 最新医学, 36(10): 1961, 1981.

カレッド・レシャード, 人見滋樹, 前里和夫, 術前の11年間胸部レントゲン写真で経過を観察しえた良性縦隔奇形腫の1症例, 京大胸部研紀要14(1)~(2): 22, 1981.

寺松 孝, 加藤弘文: 高齢者肺癌に対する外科療法, 癌と化学療法8(11): 1981.

松延政一, 寺松 孝: 肺癌診断と CT, medicina 18 (3), 1981.

2. 胸腺・免疫

M. Goto, A. Mitsuoka, M. Sugiyama, M. Kitano: Enhancement of delayed hypersensitivity reaction with varieties of anti-cancer drugs. A common biological phenomenon., J. Exp. Med. 154: 204.

和田洋己, 松延政一: 癌と免疫療法—溶連菌製剤 OK-432の検討—Ⅲ腹腔内非特異キラー細胞の性格—キラーマクロファージと NK 細胞, 癌と化学療法 8: 1794, 1981.

和田洋己, 松延政一: 癌と免疫療法—溶連菌製剤 OK-432の検討—ⅣOK-432の脾細胞 NK 活性増強効果, 癌と化学療法 8: 1799, 1981.

3. 結 核

山本博昭, 寺松 孝: 分担執筆: 肺結核空洞の切開術, 現代外科手術学大系 8, 呼吸器の手術, 中山書店: 267, 1981.

4. 人工材料

Watanabe, S., Kato, H., Shimizu, Y., Teramatsu, T., Endo, J., Murachi, T., and Hino, T.: Studies on collagen-coated synthetic polymer composite carrying immobilized enzymes, *Artificial Organs* 3 (suppl): 200, 1979.

Watanabe, S., Shimizu, Y., Teramatsu, T., Murachi, T., and Hino, T.: The *in vitro* and *in vivo* behavior of urokinase immobilized onto collagen-synthetic polymer composite material, *J. Biomed. Mater. Res.* 15: 533, 1981.

H. Kato, H. Mizuno, K. Tamura, S. Watanabe, Y. Shimizu, T. Teramatsu: Experimental Study on Artificial Ceramic Bone for Ribs and Sternum, IIIrd ISAO. Proceedings,

清水慶彦, 寺松 孝: 呼吸器外科領域における埋植用人工材, 臨床外科 Year Book 1981~'82: 163, 1981~1982.

渡部 智, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 日野常稔: 卵白リゾチーム固定化による抗菌性医用材料—特に固定化異種蛋白としての組織内反応について—人工臓器9(6): 915, 1980.

村地 孝, 田畑勝好, 渡部 智: 固定化酵素—医用高分子としての新展開, 表面19(4): 174, 1981.

寺松 孝, 清水慶彦, 渡部 智: 固定化生体触媒の医療への応用, 治療への応用Ⅱ, 福井三郎, 千畑一郎, 鈴木周一郎編, 酵素工学, 東京化学同人, 東京, 1981: 445, 1981.

渡部 智, 中村達雄, 清水慶彦, 寺松 孝: 異種生物由来医用材料ヘテログラフトを応用した酵素固定化機能性医用材料, 第3回日本バイオマテリアル学会大会論文集: 39, 1981.

清水慶彦, 寺松 孝: 呼吸器外科の材料, 外科 Mook 20: 97, 1981.

清水慶彦, 寺松 孝: 生体高分子合成高分子複合体, 化学の領域, 増刊, バイオマテリアルサイエンス 1: 169, 1982.

寺松 孝: 人工気管, 臨床胸部外科2(1), 1982.

5. 心・血管

永尾正男, 泰江弘文, 表 信吾, 滝沢明恵, 秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 坂口正子, 小柳津朋子: 本院CCV に於ける急性心筋硬塞患者の検討, ICV と CCV 3: 81, 1981.

永尾正男, 泰江弘文, 表 信吾, 滝沢明恵, 伊藤忠弘, 秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣: 急性心筋硬塞後の心臓破裂9例の検討—その臨床所見と危険因子—ICV と CCV 5: 571, 1981.

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥, 泰江弘文, 表 信吾, 滝沢明恵, 永尾正男: 虚血性心疾患に対する緊急外科治療の検討, 外科診療23: 297, 1981.

島本光臣, 秋山文弥, 虚血性心疾患の外科治療, 日本臨床外科医学会雑誌42: 250, 1981.

島本光臣, 秋山文弥, 篠崎 拓, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根: 急性心筋硬塞の外科治療, 循環器科 9: 552, 1981.

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥, 泰江弘文, 表 信吾, 滝沢明恵, 永尾正男: A・C bypass 術後の spasm 制御の試み, 胸部外科34: 795, 1981.

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥, 虚血性心疾患外科治療における IABP の使用経験, 日本心臓血管外科学会雑誌11: 77, 1981.

篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 中村達雄, 秋山文弥: 弁置換術近接期の合併症, 日本心臓血管外科学会雑誌11: 130, 1981.

6. 一般胸部疾患, 他

秋山文弥, 篠崎 卓, 島本光臣, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 漏斗胸に対する腹直筋有茎性胸骨翻転術—術式と遠隔成績—臨床胸部外科1: 151, 1981.

船津武志: 気腫性肺嚢胞症の治療—自然気胸1,905例の臨床的検討—, 外科診療23(3),

浜本康平, 立石昭三, 他: 男子中学生に見られた外傷性 Pnenmatocoele の1例, 日胸疾患会誌19: 110, 1981.

伊藤元彦, 玉田二郎, 青木 稔: 気道分泌系の機能と構造—気道の防禦と関連して—, 日本胸部疾患学会雑誌19(12), 1981.

光岡明夫, カレッド・レシャード, 北野司久, 石井松溪: 縦隔病変に対する気縦隔 CT 検査—Gas Contrasted CT の展望—, 日本胸部外科学会雑誌29: 409, 1981.

船津武志: 気腫性肺嚢胞症の治療—自然気胸1905例の臨床的検討, 日本胸部外科学会雑誌29(4), 1981.

T. Taki, R. Hatakenaka, M. Kuwabara, Y. Matsubara, C. Nagase, S. Ikeda: Surgical treatment of the spontaneous pneumothoraces and its pathological findings, *Broncho-Pneumologie* 3 (4),

A. Mitsuoka, M. Kitano and S. Ishii: Gas-contrasted computed tomography of the mediastinum. *J. Comput. Assist. Tomogr.* 5: 588, 1981.

Honda. K., Hitomi, S. et al: TBLB as a diagnostic procedur for sarcoidosis in Japan—A cooperative study in twenty four hospitals., *Bronchology. Proceeding of the Second World Congress for Bronchology:* 186, 1981.

Hitomi. S., Maesato. K., Tachibana. T.: Bronchoscopic findings and transbronchoscopic lung biopsy in sarcoidosis., *Bronchology. Proceedings of the Second World Congress for Bronchology:* 198, 1981.

T. Funatsu, T. Taki, Y. Matsubara, R. Hatakenaka, Y. Miyamoto, S. Kosaba, K. Ninomiya and S. Ikeda: Diagnosis and treatment of tracheobronchomalacia with asthmatic attack, *Bronchology. Research, Diagnostic, and Therapeutic Aspects,*

松原義人, 小鯖 覚, 八木一之, 宮本好博, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 人工気管による気管分岐部の再建, 日本外科学会雑誌82(9)

光岡明夫, 北野司久, 友永 轟, 楠原健嗣, 小橋陽一郎: 僧帽弁閉鎖不全に伴った肺内骨形成症の1例, 日本胸部臨床40: 346, 1981.

玉田二郎, 高橋憲太郎, 伊藤元彦: Tracheopothia osteoplastica の1例, 日本胸部臨床40(10), 1981.

カレッド・レシャード, 北野司久, 池 修, 相原雅典: 胸郭成形后 *Campylobacter fetus* により発生した胸壁膿瘍の1症例, 日本胸部臨床40(11): 944, 1981.

カレッド・レシャード, 池 修, 北野司久, 人見滋樹, 前里和夫: 胸膜の抗生剤の透過性, 最新医学, 36(11): 2201, 1981.

青木 稔, 伊藤元彦, 寺松 孝, 平井圭一: 正常及び実験的に炎症を招来させたラット気管腺におけるペルオキシダーゼ活性についての細胞化学的研究, 環境科学総合研究所年報8: 11, 1980.

寺松 孝, 伊藤元彦, 加藤弘文, 船津武志, 瀧 俊彦, 山本博昭: 分担執筆: 肺, 新手術適応とタイミング, メジカルビュー社, 1981.

人見滋樹, 前里和夫, 他1名: サルコイドーシスにおける気管支鏡所見, 54年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績: 234, 1980.

人見滋樹, 他3名: サルコイドーシスの肺野病変に関する臨床的検討, 54年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究業績: 272, 1980.

〔学 術 講 演 会〕

Interstitial fibrosis and pneumonias, London 大学病理, Herbert Spencer, 昭和56年10月13日

病 理 学 部 門

1. 肉芽・癌研究グループ

〔学 会 発 表〕

安平公夫, 浜本康平: 肉芽に関する研究(5)肺好酸球性肉芽腫症の実験発生(3), 日本病理学会第70回総会講演(1981. 4. 2)

浜本康平, 馬場満男, 安平公夫: 肉芽に関する研究(4)マウス肺形質細胞肉芽腫症の構成リンパ球-酵素抗体法による細胞の同定, 日本病理学会第70回総会講演 (1981. 4. 3)

橋本研二, 木下和之, 安平公夫: 発癌経過中のマウスの血液 DNA-binding protein(2)その諸性質と組織内局在について, 第40回日本癌学会総会講演 (1981. 10. 6)

吉田竜太郎, 早石 修, 安平公夫: Meth-A (線維肉腫) の肺転移によるマウス肺のインドールアミン酸素添加酵素の誘導, 第40回日本癌学会総会講演 (1981. 10. 5)

安平公夫, 浜本康平, 熊沢義雄, 小原幸信: マイコバクテリア細胞壁の肉芽形成機能とその化学修飾, 厚生省特定疾患, 肉芽性肺疾患調査研究班昭和56年度第1回総会講演 (1981. 5. 15)

安平公夫, 浜本康平, 熊沢義雄, 小原幸信: ロウ D とその構成要素の肉芽形成作用, 厚生省特定疾患, 肉芽性肺疾患調査研究班昭和56年度第1回総会講演 (1981. 8. 15)

浜本康平, 小原幸信, 安平公夫: ウサギ肺における孤立性好酸球肉芽腫の実験発生, 更生省特定疾患, 肉芽性肺疾患調査研究班, 昭和56年度第1回総会講演 (1981. 8. 15)

〔誌 上 発 表〕

Hamamoto, Y., Kobara, Y., Kojima, A., Kumazawa, Y. & Yasuhira, K.: Experimental production of pulmonary granulomas. I. Immune granulomas induced by chemically modified cell walls and their constituents. Brit. J. exp. Path. 62: 259-269 (1981).

Yasuhira, Y., Hamamoto, Y., Kumazawa, Y. & Kobara, Y.: Granulomatogenic activity of mycobacterial cell walls and their chemical modification. Bull. europ. Physiopath. resp. 17: 67 (1981).

Yasuhira, K., Hamamoto, Y., Kumazawa, Y. & Kobara, Y.: Granulomagenic activity of wax D and its constituents. Bull. europ. Physiopath. resp. 17: 67 (1981).

Hamamoto, Y., Kobara, Y. & Yasuhira, K.: Production of unifocal eosinophilic granuloma in the rabbit lung. Bull. europ. Physiopath. resp. 17: 73 (1981).

安平公夫: 一般細菌による肺膿瘍の実験的研究, 日本医事新報2975: 136-137 (1981. 5. 2)

〔著 書〕

安平公夫, 豊島 滋, 西村千昭編集, 化学療法と免疫療法-感染症, がん, アレルギー疾患, 講談社 (1981)

2. 結合組織研究グループ

〔学 会 発 表〕

清水克時, 石井正治, 笠井隆一, 山室隆夫, 細川昌則, 竹下修史, 竹田俊男: 関節の老化とアミロイド沈着, 第54回日本整形外科学会総会 (昭56. 3)

石井正治, 藤原祐三, 山室隆夫, 伊藤元彦, 竹田俊男: 線維性骨異形成症のヌードマウス移植後の経時的変化について, 第54回日本整形外科学会総会 (昭56. 3)

細川昌則, 石井正治, 小笹 宏, 竹田俊男: 結合組織に関する実験的研究11. 培養線維芽細胞における性ステロイドリセプターの分化とコラーゲン代謝応答, 第70回日本病理学会総会 (昭56. 4)

入野美香, 竹田俊男, 安平公夫: 銅と神経系発育: Penicillamine による銅欠乏モデルマウスにおいて, 第70回日本病理学会総会 (昭56. 4)

竹田俊男, 細川昌則, 竹下修史, 入野美香, 樋口京一, 松下隆寿, 富田由美子, 安平公夫, 清水克時, 石井正治, 山室隆夫: 老化モデルマウスに関する実験的研究Ⅱ. 系統樹立の試み(2), 第70回日本病理学会総会 (昭56. 4)

竹下修史, 細川昌則, 入野美香, 樋口京一, 松村敦子, 清水克時, 竹田俊男: 老化モデルマウスに関する実験的研究Ⅲ. 本系統におけるアミロイド沈着について, 第70回日本病理学会総会 (昭56. 4)

細川昌則, 竹下修史, 樋口京一, 竹田俊男: 老化モデルマウスに関する実験的研究Ⅳ. 本系統にみられる眼所見一特に白内障について, 第70回日本病理学会総会 (昭56. 4)

竹田俊男, 細川昌則, 竹下修史, 入野美香, 樋口京一, 松下隆寿, 富田由美子, 安平公夫, 清水克時, 石井正

治, 山室隆夫: 老化モデル動物系統樹立の試み (第Ⅲ報), 日本基礎老化研究会第5回大会 (昭56.5)

細川昌則, 樋口京一, 竹下修史, 清水克時, 竹田俊男: 「老化モデルマウス」の老化度判定基準—Grading Score System—について, 日本基礎老化研究会第5回大会 (昭56.5)

竹下修史, 細川昌則, 入野美香, 樋口京一, 安平公夫, 竹田俊男: 「老化モデルマウス」に見られる心血管系の変化について (第Ⅰ報), 日本基礎老化研究会第5回大会 (昭56.5)

清水克時, 石井正治, 細川昌則, 樋口京一, 入野美香, 山室隆夫, 竹田俊男: 「老化モデルマウス」に見られる筋骨格系の変化について (第Ⅱ報)—椎間板のアミロイド沈着—, 日本基礎老化研究会第5回大会 (昭56.5)

松村敦子, 樋口京一, 清水克時, 細川昌則, 竹田俊男: 「老化モデルマウス」に見られるアミロイドの生化学的特性 (第Ⅰ報), 日本基礎老化研究会第5回大会 (昭56.5)

清水克時, 石井正治, 山室隆夫, 細川昌則, 竹下修史, 竹田俊男: 老化モデルマウスの関節アミロイド沈着—椎間板のアミロイド沈着について—, 第25回日本リウマチ学会総会 (昭56.5)

Shimizu, K., Ishii, M., Yamamuro, T., Hosokawa, M., Takeshita, S. and Takeda, T.: Depot amyloide dans les articulations d'un modele murin de senescence acceleree. 15th International Congress of Rheumatology (June 1981, Paris)

石井正治, 山室隆夫, 藤原祐三, 竹田俊男: Fibrous dysplasia の線維芽細胞の性格について, 第14回骨・軟部腫瘍研究会 (昭56.7)

石井正治, 山室隆夫, 竹田俊男: 骨軟部悪性腫瘍に対する抗癌剤感受性試験の試み, 第14回骨・軟部腫瘍研究会 (昭56.7)

石井正治, 藤原祐三, 山室隆夫, 細川昌則, 竹田俊男: ヒト培養病的間葉系細胞にみる性ステロイドホルモンリセプター, 第13回日本結合組織学会総会 (昭56.8)

樋口京一, 松村敦子, 橋本研二, 入野美香, 細川昌則, 安平公夫, 竹田俊男, 清水克時: Senescence Accelerated Mouse (SAM) にみられるアミロイド蛋白—生化学的, および免疫組織化学的解析—, 第13回日本結合組織学会総会 (昭56.8)

石井正治, 藤原祐三, 山室隆夫, 伊藤元彦, 竹田俊男: ヌードマウス移植による Fibrous Dysplasia の病態解析, 第13回日本結合組織学会総会 (昭56.8)

樋口京一, 竹田俊男, 清水克時: 子宮にみられるピリジノリン架橋について, 第13回日本結合組織学会総会 (昭56.8)

清水克時, 山室隆夫, 樋口京一, 竹田俊男: 骨・腱コラーゲンピリジノリン架橋の in vitro aging について, 第13回日本結合組織学会総会 (昭56.8)

清水克時, 山室隆夫, 樋口京一, 竹田俊男, 大辻孝昭: マウス骨コラーゲン架橋におよぼすエストロゲンの影響, 第13回日本結合組織学会総会 (昭56.8)

〔誌 上 発 表〕

Ozasa, H., Tominaga, T., Nishimura, T. and Takeda, T.: Evidence for receptor-dependent response to dihydrotestosterone in cultured human fibroblasts. *Endokrinologie* 77: 129-136, 1981.

Ozasa, H., Tominaga, T., Nishimura, T. and Takeda, T.: Lysyl oxidase activity in the mouse uterine cervix is physiologically regulated by estrogen. *Endocrinology* 109: 618-621, 1981.

Hosokawa, M., Ishii, M., Inoue, K., Yao, C. S. and Takeda, T.: Estrogen induces different responses in dermal and lung fibroblasts: special reference to collagen. *Conn. Tiss. Res.* 9: 115-120, 1981.

Shimizu, K., Kasai, R., Yamamuro, T., Hosokawa, M., Takeshita, S. and Takeda, T.: Amyloid deposition in the articular structure of AKR senescent mice. *Arth. Rheum.* 24: 1540-1543, 1981.

Takeda, T., Hosokawa, M., Takeshita, S., Irino, M., Higuchi, K., Matsushita, T., Tomita, Y., Yasuhira, K., Hamamoto, H., Shimizu, K., Ishii, M. and Yamamuro, T.: A new murine model of accelerated senescence. *Mech. Age. Devel.* 17: 183-194, 1981.

Shimizu, K., Yamamuro, T., Higuchi, K. and Takeda, T.: In vitro aging of pyridinoline crosslinks in bone and tendon collagens. *Arch. Jpn. Chir.* 50: 789-795, 1981.

笠井隆一, 奥村秀雄, 山室隆夫, 竹田俊男, 新納英夫: 微量元素(銅・錫)の骨組織に対する影響, 整形外科基礎科学8「骨・軟骨代謝の生理と病態」321~326, 昭和56年.

3. 表面活性物質研究グループ

〔学 会 発 表〕

鈴木康弘, 中井栄一, 大川欣一: 再構成肺表面活性物質の表面活性について 第70回日本病理学会総会(56年4月)

鈴木康弘, 中井栄一: 肺表面活性物質の再構成法の検討. 第12回日本界面医学会(56年6月)

鈴木康弘, 中井栄一: 肺表面活性物質の表面活性への蛋白, 脂質の関与とその特異性について 第12回日本界面医学会(56年6月)

〔誌 上 発 表〕

Yosuke Shigematsu, Toru Momoi, Masakatsu, Sudo, Yasuhiro Suzuki: (ω -1)-hydroxymonocarboxylic acids in urine of infants fed medium-chain triglycerides. *Clinical Chemistry* 27: 1661, 1981.

Yasuhiro Suzuki, Eiichi Nakai, Kinichi Ohkawa: Experimental studies on the pulmonary surfactant—Reconstitution of surface active material. *Journal of Lipid Res.* 23: 53, 1982.

Yasuhiro Suzuki.: Effect of protein, cholesterol and phosphatidylglycerol on the surface activity of the lipid-protein complex reconstituted from pig pulmonary surfactant. *Journal of Lipid Res.* 23: 62, 1982.

3. 博士論文抄録

教室で行われた実験が主論文となって, 本年度に博士号審査に合格した次の3業績を抄録する.

博士論文抄録 1.

培養ヒト皮膚線維細胞へのdihydrotestosterone 作用にかんする研究—特に, 蛋白・コラーゲンおよび DNA 合成能に及ぼすホルモン効果について—小笹 宏, 富永敏朗, 西村敏雄, 竹田俊男, 日本産科婦人科学会雑誌, 32, 1567-1574, 昭55年.

正常性成熟婦人の腹部および外陰部皮膚培養線維芽細胞を用い sucrose density gradient analysis により細胞が8 S dihydrotestosterone (以下 DHT) リセプターを有すること, ついで intact minolayer assay にて DHT 結合能およびみかけの解離定数を検討したところ腹部線維芽細胞で 21.6 ± 1.1 f mole/mg protein, 0.50 ± 0.028 nM 外陰部線維芽細胞で 35.9 ± 1.7 f mole/mg protein, 0.24 ± 0.015 nM で, DHT 結合能が後者で有意に高いことが判った. 更にこれら細胞の DNA, 蛋白およびコラーゲン合成能におよぼす DHT の影響を観察したところ両細胞とも明瞭な蛋白合成能の亢進がみられ, かつその効果は外陰部由来の細胞が僅かながら強く, コラーゲン合成能は外陰部由来線維芽細胞が腹部に比し明かに高い亢進を示した. DNA 合成能には両者間に差はなかった. 以上の成績より培養ヒト線維芽細胞に対する DHT の蛋白・コラーゲン合成能亢進作用が線維芽細胞の DHT 結合能に相関し, DHT の作用が線維芽細胞の DHT リセプターを介して発現していることを示唆している.

博士論文抄録 2.

Katsuji Shimizu et al.: Amyloid deposition on the articular structures of Senescence Accelerated Mouse (SAM) Arthritis and Rheumatism 24 (12): 1540-1543, 1981, Arthritis and Rheumatism, 25:710-712, 1982.

人体関節組織へのアミロイド沈着は, 最近加齢に伴って高頻度におこることが知られてきたが, これまで実験動物の関節にアミロイド沈着を証明した報告はない. 新しい純系動物, 老化促進モデルマウス (SAM) の滑膜性関節 (Arthritis & Rheum., 1981) 及び 椎間板 (Arthritis & Rheum., 1982) を組織学的に検討した結果, 高頻度にアミロイド沈着を認めた. 全身の関節を調べた結果, 好発関節と低発関節があった. またこの関節アミロイド沈着の頻度と月齢との間に有意の正の相関があり, 対照の R 系高齢マウス数例に同様の沈着を認めたことから, この関節アミロイド沈着は加齢と密接な関連を持つと結論した. このマウスは, 関節アミロイド沈着の機構の解

明, 関節の退行性変化とアミロイド沈着との関係の解明を行う上での実験モデルとなると考える。

博士論文抄録 3.

D-Penicillamine Toxicity in Mice. II. Concentrations of Cu, Zn, and Fe Related to Development of Toxicity.: Irino, M., Yasuhira, K. and Takeda, T.; Toxicol. Appl. Pharmacol. 63: 1-12, 1982.

D-Penicillamine (以下 Pe) は, 近年慢性関節リウマチの治療等に広く用いられている。

0.4%の Pe を生後3週の DDD マウスに経口投与すると, 神経症状, 結合組織成熟障害が観察され, 出現時期に一致して, 脳・脊髄・皮膚銅含量は著しい低値を示した。さらに, 銅を投与することで, これら組織銅含量は回復し, 臨床所見は改善された。また, 妊娠・授乳中の母獣への0.4% Pe 経口投与は, 乳仔に, より重篤な神経系, 結合組織の障害を惹起し, 64%が離乳までに死亡した。乳汁銅含量は対照群の20%を示し, 組織銅定量の結果, 乳仔の顕著な銅欠乏状態を確認した。さらに, 母獣に, 出産と同時に銅を投与することで, 乳仔組織銅含量は回復し, 同時に, 完全な生存率の回復, 異常所見の消失が認められた。以上, D-Penicillamine は, 幼若な動物に神経系発育・結合組織の成熟障害をもたらす, その直接原因は, キレート作用により惹起された銅欠乏状態であると考えられる。

細胞化学部門

〔学 会 発 表〕

相良淳二, 永田和宏, 市川康夫: マウス骨髓性白血病細胞の増殖と分化, 19報, 粗製アクトミオシンの Mg-ATPase 活性の変化, 第40回日本癌学会総会, 昭和56年10月, 札幌

永田和宏, 相良淳二, 市川康夫: マウス骨髓性白血病細胞の増殖と分化, 20報, 分化とアクチン関与ゲル化, 同上学会

相良淳二, 永田和宏, 市川康夫: 骨髓性白血病細胞 (M1) アクトミオシンの相互作用, 第19回日本生物物理学会, 昭和56年10月, 福岡

〔誌 上 発 表〕

Y. Sokawa, K. Nagata, and Y. Ichikawa: Induction and function of 2', 5'-oligoadenylate synthetase in differentiation of mouse myeloid leukemia cells. Exp. Cell Res. 135, 191-197, 1981.

永田和宏: 白血病細胞からマクロファージへの分化—運動能発現機構をめぐって—, 代謝 18, 43-52, 1981.

市川康夫, 堀内正宏: マクロファージと好中球への分化のふり分け, 水野・武谷・石田編, 統生体防御の機構 (東大出版) p. 53-62, 1981.

市川康夫: M1 と Mm1 株について, 組織培養 7, 1-6, 1981.

細菌血清学部門

〔学 会 発 表〕

Katsura, Y., Kina, T., Minato, N., Takaoki, M., Takahashi, C. and Nishikawa, S.: Selective infection of vesicular stomatitis virus to suppressor inducer T cells. XIVth International Leucocyte Culture Conference, Heidelberg, Germany, June 1981,

Hosono, M. and Katsura, Y.: Induction of self-specific cytotoxic lymphocytes in H-2 homozygous F₁→P mixed spleen cell culture. Receptors and Restrictions in the Immune Response, Kyoto, October 1981.

喜納辰夫, 矢野勝喜, 長田洋子, 高沖悠子, 桂 義元: 4-hydroxy-3-nitrophenyl acetyl (NP) 反応性T細胞の抗原特異性の解析, 第11回日本免疫学会総会 (昭56.12月) 東京.

矢野勝喜, 喜納辰夫, 高橋千恵, 森重福美, 桂 義元: 長期培養T細胞による 2,4,6-Trinitrophenyl (TNP) 特異的遅延型過敏症及びヘルパー活性の解析, 第11回日本免疫学会総会 (昭56.12月) 東京

新野正道, 桂 義元: 同一系統, 同一個体内での PLN (Popliteal lymph node) 肥大反応: 反応誘発細胞と反応細胞の加齢に伴う変動, 第11回日本免疫学会総会 (昭56.12月) 東京

喜納辰夫: T細胞によるポリクローナル Ig 産生の調節, 京都免疫シンポジウム (昭56.7.京都)

〔誌 上 発 表〕

Katsura, Y., Minato, N. and Nishikawa, S.: Role of virus-replicating T cells in the suppression of delayed-type hypersensitivity, *J. Immunol.*, **126**, 1529-1533 (1981)

Katsura, Y., Kina, T., Minato, N., Takaoki, M. and Nishikawa, S.: Selective infection of vesicular stomatitis virus to suppressor inducer T cell. *Mechanisms of Lymphocyte Activation*, Ed. by K. Resch and H. Kirchner, Elsevier/North-Holland Biomedical Press, Amsterdam, New York, Oxford, p. 603-606. (1981)

Kuhara, T., Hosono, M. and Fujiwara, M.: Studies on the Resistance to Tolerance Induction against Human IgG in DDD Mice. IV. Transient Tolerant State of T-cell Precursors in Bone Marrow. *Cell. Immunol.*, **57**, 377-388 (1981).

Hosono, M. and Fujiwara, M.: Studies on the Resistance to Tolerance Induction against Human IgG in DDD Mice. V. Insignificant Contribution of Suppressor Cells to the Age-Related Change in Tolerogen Susceptibility. *Bull. Chest Dis Res. Inst., Kyoto Univ.*, **14**, 33-43 (1981)

Fujiwara, M., Hosono, M. and Kuhara, T.: Induction of immunological tolerance in T cell precursors in bone marrow. *Cellular and Molecular Mechanisms of Immunologic Tolerance*, Ed. by T. Hraha and M. Hasek, Marcel Dekker inc., New York, p. 225-230. (1981).

Nishikawa, S., Hirata, T. and Izumi, T.: Helper function in patients with sarcoidosis. *Sarcoidosis*, Ed. by R. Mikami and Y. Hosoda, Univ. Tokyo Press (1981).

臨床肺生理学部門および放射線科

〔学会・研究会発表〕

加藤幹夫: 火災事故被災者の肺機能障害について, 結核胸部疾患研究所学術講演会, 1981. 1.

坂口圭司, 藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦, 本田 宏: 睾丸原発巣切除後, 腫瘍マーカー陰性のまま肺転移をきたした胎児性癌の一例, 第34回肺癌学会関西支部会, 1981. 2.

大井元晴, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 24%酸素吸入による高炭酸ガス血症悪化に関するイヌ実験モデル, 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班1981. 2.

甲斐隆義, 宮崎泰弘, 福島 純, 桑原哲郎: 大分市医師会立アルメイダ病院胸部外来の現況, 大分市医師会医学学会総会, 1981. 2.

加藤幹夫, 大成功一, 平井正志: 火災事故被災者の肺機能障害について, 第22回閉塞性肺疾患研究会, 1981. 2.

平井正志, 李 勝弘, 安井浩明, 島田一恵, 佐川弥之助: 呼吸不全による気管切開の問題点 (第2報), 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和55年度総会, 1981. 2.

芳賀敏彦, 米田良蔵, 大井元晴, 倉島篤行: 家族性に発生し母・子2例を剖検し得た原発性肺高血圧症の臨床経過, 同上, 1981. 2.

芳賀敏彦, 町田和子, 長山直弘, 渡辺純一, 大井元晴: 膜型酸素富化 (濃縮) 器の臨床応用, 同上, 1981. 2.

竹田俊彦, 佐藤公彦, 佐川弥之助: 線維芽細胞のステロイドレセプター系の分化と臓器特異性, 第17回 FLD シンポジウム, 1981. 2.

室本 仁, 藤田正憲: 最近の呼吸器疾患の知見について, 郵政病院診療所研究会, 1981. 3.

草薨芳明, 大井元晴, 他: 強力化学療法による初期患化一悪化時レ線および組織所見の検討, 第56回日本結核病学会総会, 1981. 4.

芳賀敏彦, 大井元晴, 他: 膜型酸素濃縮器の臨床応用, 第21回日本胸部疾患学会総会, 1981. 4.

島田一恵, 佐藤公彦, 佐川弥之助: Hhpoxia の血管外肺水分量に及ぼす影響, 第21回日本胸部疾患学会総会, 1981. 4.

安田隆三郎, 李 泰興, 他: 大動脈弁置換術10症例の検討, 第11回滋賀県循環器疾患研究会, 1981. 4.

中井栄一, 鈴木康弘, 徐 航霄: 摘出肺癌組織周辺部における肺胞腔内脂質の超微形態の観察, 第70回日本病理学会総会, 1981. 4.

佐川弥之助: 肺内水分量の測定と意義, 第21回日本胸部疾患学会総会特別講演, 1981. 5.

Dr. J. Mead: The Diaphragm: It's Actions and Displacements, 1981. 5.

坪井裕志, 弘野慶次郎, 市谷迪雄: 有癭性膿胸に対する手術々式とその成績について, 近畿外科学会, 1981. 5.

徐 航霄, 佐藤公彦, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 走査型電顕法によるマウス胎内胸膜の観察, 第21回日本胸部疾患学会総会, 1981. 5.

加藤幹夫: 臨床肺機能検査の現状と将来, パネルディスカッション, 肺機能の問題点, 第21回日本胸部疾患学会総会, 1981. 5.

宮本茂充: 天川村に於ける村民健康検診の中間報告ならびに若干の考察, 第21回国保地域医療学会, 1981. 5.

佐川弥之助: 肺水腫の臨床, 京都府医師会胸部医会講演会, 1981. 6.

佐野 求, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 低酸素性肺血管収縮反応—肺血行動態の血流再配分に及ぼす影響について, 第1回京阪神肺機能研究会, 1981. 6.

坪井裕志, 弘野慶次郎, 市谷迪雄: 術前換気機能の評価困難であった低肺機能患者の肺切除経験, 日本胸部外科学会関西地方会, 1981. 6.

崎田倫代, 藤田正憲, 山田公二, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦, 下村泰造: 肺内陰影を認めない胸膜病変における胸腔鏡の診断的役割, 第17回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1981. 6.

関川利幸, 佐藤公彦, 佐川弥之助: エンドトキシン投与時の過酸化脂質の変動について, 第17回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1981. 6.

大八木章博, 仁瓶誠五, 星野忠彦, 徐航霄: 肺腺癌に喉頭扁平上皮癌を併発した1症例, 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第197回例会, 1981. 6.

平井正志, 大成功一, 加藤幹夫: 火災事故被災者の気道抵抗について, 第1回京阪神肺機能研究会, 1981. 6.

山口 力, 佐本昌平, 加藤幹夫, 佐川弥之助, 太田和夫, 小野村敏信: 特発性側彎症の肺機能及び変形胸郭について, 第17回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1981. 6.

森 渥視, 安田隆三郎, 李 泰興, 他: 大動脈・冠動脈バイパス手術症例の検討, 第51回日循学会近畿地方会 1981. 6.

玉井秀男, 安田隆三郎, 李 泰興, 他: SLE をともなった大動脈弁閉鎖不全症の1例, 同上, 1981. 6.

李 泰興, 安田隆三郎, 他: PTFE graft を用いた extra-anatomic bypass による鎖骨下動脈起始部閉塞の2治験例について, 第24回日本胸部外科学会関西地方会, 1981. 6.

藺 潤, 安田隆三郎, 李 泰興, 他: 開心術後の急性腎不全とその対策, 同上, 1981. 6.

佐川弥之助: 肺水腫における肺内水分量の測定, 神戸大学医学部内科講演会, 1981. 7.

弘野慶次郎, 市谷迪雄, 坪井裕志: 胸壁の Ewing's sarcoma の1例, 第35回日本肺癌学会関西支部会, 1981. 7.

寒川光治, 江口 忠, 藤田正憲, 山田公二, 飯塚満男, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦, 下村泰造, 田辺正也: 悪性胸膜中皮腫3例の検討, 第35回肺癌学会関西支部会, 1981. 7.

安田隆三郎, 李 泰興, 他: IVH 合併症の2治験例, 第9回京滋栄養・輸液懇談会, 1981. 7.

森 渥視, 安田隆三郎, 李 泰興, 他: シンポジウム, 開心術の合併症, 発言, 開心術後急性腎不全とその対策, 第34回日胸外科学会総会, 1981. 9.

加藤幹夫: 慢性閉塞性肺疾患の診断と治療, 京都府社会保険支払基金学術講演会, 1981. 9.

下田喜美子, 山本 徹, 藤田正憲, 河崎 昭, 室本 仁: 多発性硬化症, 免疫異常のある間質性肺線維症, 第24回大阪内科懇話会, 1981. 9.

中村良雄, 安田隆三郎, 李 泰興, 他: 右冠動脈右心室瘻の1治験例, 第12回滋賀県循環器疾患研究会, 1981. 10.

- 安田隆三郎, 李 泰興, 他: 腹部大動脈瘤破裂の1手術治験例, 同上, 1981. 10.
- 玉井秀男, 安田隆三郎, 李 泰興, 他: Vegetation の超音波診断, 同上, 1981. 10.
- 崎田倫代, 藤田正憲, 山田公二, 室本 仁, 倉田昌彦: 肺内陰影を認めない胸部悪性腫瘍症例における胸腔鏡検査の診断的役割, 第22回日本肺がん学会総会, 1981. 10.
- 佐川弥之助: 呼吸不全の臨床, 湖北医師会講演会, 1981. 11.
- 安田隆三郎, 李 泰興, 他: バルサルバ洞動脈瘤破裂の1手術治験例, 第130回近畿外科学会, 1981. 11.
- 藺 潤, 安田隆三郎, 李 泰興, 他: 僧帽弁置換兼三尖弁形成術後に意識障害をきたした1症例について, 同上, 1981. 11.
- 藺 潤, 安田隆三郎, 李 泰興, 他: 病院開設以来の心臓血管外科手術症例の検討, 同上, 1981. 11.
- 安田隆三郎, 李 泰興, 他: 無輸血開心術の検討, 滋賀県外科医会, 1981. 11.
- 徐 航霄, 加藤幹夫, 佐川弥之助: Kartagener 症候群的電子顕微鏡研究, 台湾医学会第74総会, 1981. 11.
- 中井栄一, 徐 航霄: 人的細菌周囲物質の凍結切断法による電子顕微鏡的研究, 台湾医学会第74回総会, 1981. 11.
- 佐本昌平, 平井正志, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 慢性閉塞性肺疾患における肺内圧縮ガス量, 第18回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1981. 11.
- 大井元晴, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 睡眠時高度に低酸素血症の悪化した慢性呼吸不全の1例, 第18回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1981. 11.
- 弘野慶次郎, 市谷廸雄, 坪井裕志: 胸壁の malignant hemangiopericytoma の1経験例, 近畿外科学会, 1981. 11.
- 村田純子, 藤田正憲, 室本 仁: 肝脾腫をとめない気胸をくりかえした若年者の間質性肺線維症の1例, 北野病院内集談会, 1981. 11.
- M. Kato, K. Onaru, M. Hirai and Y. Sagawa: Chronic effects of fire casualty on pulmonary function 7th Asia Pacific Congress on Diseases of the Chest, Hong-Kong. Nov. 1981.
- Hsu Hang-Hsiao, E. Nakai, K. Sato, M. Kato, Y. Sagawa: A study of morphological changes during the development of mice pleura from embryo to senile stage, Hong-Kong. Nov. 1981.
- M. Kurata, H. Okada, Y. Shimomura, M. Fujita, J. Muromoto: A clinical evaluation of theracoscopy, A study of morphological changes during the development of mice pleura from embryo to senile stage, Hong-Kong. Nov. 1981.
- 武内俊史, 安田隆三郎, 李 泰興, 他: 開心術後 IABP 施行例の検討, 第52回日循学会近畿地方会, 1981. 12.
- 三好稔彦, 安田隆三郎, 李 泰興, 他: バルサルバ洞動脈瘤破裂におけるコントラスト超音波断層法の有用性を示した1症例, 同上, 1981. 12.
- 福島 純, 宮崎泰弘, 桑原哲郎, 甲斐隆義: 胸部X線写真上興味ある経過を示した肺胞上皮癌の1例, 第19回日本肺癌学会九州地方会
- 宮崎泰弘, 福島 純, 桑原哲郎, 甲斐隆義: 1側胸膜肺全摘を併用した悪性胸腺腫の1手術症例, 同上.
- 桑原哲郎, 宮崎泰弘, 福島 純, 甲斐隆義: 比較的末梢に発生し興味ある進展を示した腺様嚢胞癌の1例, 同上.
- 下田喜美子, 藤田正憲, 河崎 昭, 室本 仁: 多発性硬化症と免疫異常を背景にした若年者の間質性肺線維症の一例, 第106回日本内科学会近畿地方会, 1981. 12. 第4回京大胸部研肺生理学部門研究会, 1981. 12.
- 平井正志: 気道抵抗測定の問題点について, 第4回京大胸部研臨床肺生理学部門研究会, 1981. 12.
- 三嶋理晃, 久野健志, 中川正清, 安井浩明, 東谷康治: C. O. P. D. における ^{133}Xe -持続注入法によるトポグラフィカルな換気・血流分布の検討, 同上, 1981. 12.
- 新林成介: 過敏性肺臓炎と思われる3例, 同上, 1981. 12.
- 宮本茂充: 天川村に於ける村民健康検診, 同上, 1981. 12.
- 陳 和夫: 小細胞癌の治療, 同上, 1981. 12.

田中螢子：中枢気道内に腫瘍を形成した甲状腺癌転移の2例，同上，1981.12.

弘野慶次郎，坪井裕志，市谷勉雄：胸壁のヘマンギオペリサイトーマの1例，同上，1981.12.

島田一恵，安田隆三郎，李 泰興：Mesothelioma と思われる1例，同上，1981.12.

安井浩明，久野健志，中川正清，三嶋理晃，東谷康治：肺原発悪性リンパ腫と考えられた1例，同上，1981.12.

山田久和：最近経験した急性呼吸不全の症例，同上，1981.12.

石部裕一：術直後に発生した肺水腫の1例，同上，1981.12.

山岡久泰：重篤な心肺不全をきたした成人の巨人結腸症の1例，同上，1981.12.

藤田正憲，佐川弥之助：一回呼吸法による局所肺気量，肺胞 N_2 濃度に関する研究，同上，1981.12.

〔誌 上 発 表〕

久野健志，佐川弥之助：肺機能からみた閉塞性肺疾患，臨床科学，17：146，1981.2.

大井元晴，加藤幹夫，佐川弥之助：24%酸素吸入による高炭酸ガス血症悪化に関する実験モデル，厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和55年度研究業績，1981.3.

平井正志，李 勝弘，安井浩明，島田一恵，佐川弥之助：呼吸不全による気管切開の問題点（第2報），同上，1981.3.

芳賀敏彦，米田良蔵，大井元晴，倉島篤行：家族性に発生し母・子2例を剖検し得た原発性肺高血圧症の臨床経過，同上，1981.3.

芳賀敏彦，町田和子，長山直弘，渡辺純一，大井元晴：模型酸素富化（濃縮）器の臨床応用，同上，1981.3.

佐川弥之助：肺内水分量の測定，臨床医，7：656，1981.4.

佐川弥之助：手術適応と呼吸機能検査，内科セミナーRESI，呼吸器X線診断・RI診断・呼吸機能検査，分担執筆，永井書店，大阪，1981.5.

佐川弥之助，大成功一，矢野博正，市谷勉雄，坪井裕志，弘野慶次郎，中島道郎，松村理志，橋本圭司，久野健志，三嶋理晃，安田隆三郎，倉田昌彦：胸部外科領域における術後 NA872 の投与経験，薬理と治療，Vol. 9, No. 5, 1981.5.

佐川弥之助：COLD の呼吸不全，内科シリーズ No. 37，呼吸不全のすべて，分担執筆，南江堂，東京，1981.9.

佐川弥之助：肺内水分量の測定と意義，日胸会誌，19：684，1981.10.

平井正志，佐川弥之助：肺活量と1秒率の測定，検査と技術，9：887，1981.11.

前川暢夫監修，大島駿作，寺松 孝，佐川弥之助監訳：Nether 医学図譜集，呼吸器編，日本チバガイギー，宝塚，1981.12.

甲斐隆義，花輪四郎，原 修身：肺癌患者における癌性疼痛の対策，医療，35(1)63，1981.

甲斐隆義，宮崎泰弘，福島 純，桑原哲郎：国立大分病院および大分市医師会立アルメイダ病院における肺癌症例の検討—ことに進行癌の多い理由について，アルメイダ医報，7(1)1，1981.

甲斐隆義：肺癌早期発見における高危険群とそのスクリーニング法の向上に関する研究—肺癌の現行のスクリーニング法による所見と諸種の検査による所見とへだたりについて，昭和55年度厚生省がん研究助成金による研究報告集，上，57～58，1981.

平田和男，安田隆三郎他：右心房原発の粘液肉種の1剖検例，心臓，Vol. 13：343～349，1981.

加藤幹夫，島田一恵：血清電解質と血液ガス，アニオンギャップとアシドーシス臨床検査 Mook, No. 5. 血液ガス97～107，金原出版 K. K. 1981.

加藤幹夫：換気血流関係，内科セミナーRES. 1. 235～262，永井書店，1981.

加藤幹夫：肺性心，慢性疾患の治療と管理Ⅲ，COLD，現代医療13：387～392，1981.

加藤幹夫：薬物療法・呼吸不全のすべて，内科シリーズ No. 37，265～274，南江堂，1981.

加藤幹夫，李 泰興：ECMO，臨床医7：120～123，1981.

加藤幹夫：急性呼吸不全，検査と疾患—その動きと考え方，臨床検査25：1597～1605，医学書院，1981.

渡辺 弘, 塚本利之, 久野健志, 藤谷哲造, 村山ヒサ子: 大気汚染健康影響指標に関する一考察——加冷的機能変化を中心にして, 大気汚染学会誌, 16: 215~231, 1981.

徐 航霄, 仁瓶 誠: Kartagener 症候群の症例報告および電子顕微鏡による超微細構造の観察, 日本気管食道科学会会報, 第32巻第1号: 42~48, 1981.

加藤幹夫, 前川暢夫ほか: 呼吸器病学〈特集・臨床医学の展望〉日本医事新報2963: 10~17, 1981.

加藤幹夫: 肺血流のメカニクス, 医学のあゆみ, 117: 523~529, 1981.

加藤幹夫: 手術後肺炎—発生機序, 感染症, 11, No. 2: 13~17, 1981.

T. KAHN, S. HANAWA: Diagnostic and therapeutic value of the fiberoptic bronchoscopic procedures in the intensive care unit and the recovery room, 90~93, Developments Surgery Vol. 3, Bronchology-Research, Diagnostic, and Therapeutic Aspects, Martinus Nijhoff Publishers/Hague, Boston, London.

HSU Hang-Hsiao, E. Nakai: The observation of ozone exposed mouse trachea by freeze fracture method, Bronchology-Research, Diagnostic, and Therapeutic Aspects, Martinus, Hague, Boston, London.